（別紙１）

教育に関する事務の点検及び評価報告書

（令和７年度事業分）

令和８年８月（予定）

枚方市教育委員会

目　　次

１．　点検及び評価の趣旨・・ 1

２．　点検及び評価の方法

（１）点検及び評価の対象・・・ 1

（２）点検及び評価手順・・・ 1

（３）評価基準・・ 2

（４）その他 ・・・ 2

３．　評価結果（教育委員会の自己点検評価）

（１）評価結果の内訳・・・ 3

（２）点検評価の結果・・・ 6

４．　学識経験者の知見の活用・・・ 6

５．　点検評価員による総評・・・ 7

６．　令和７年度の枚方市教育振興基本計画における事業の点検評価

基本方策１　確かな学力と自立を育む教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

基本方策２　豊かな心と健やかな体を育む教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

基本方策３　教職員の資質と指導力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

基本方策４　「ともに学び、ともに育つ」教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

基本方策５　幼児教育の充実・・・ 46

基本方策６　社会に開かれた学校づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

基本方策７　学びのセーフティネットの構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

基本方策８　学びを支える教育環境の充実･･････････････････････････････････････　66

基本方策９　生涯学習の推進と図書館の充実････････････････････････････････････　72

基本方策10　文化・スポーツなどの生涯を豊かにする体験活動の充実･･････････････　84

７．枚方市教育委員会の令和７年度の活動の概要

（１）令和７年度教育委員会定例会・臨時会について･････････････････････････････　95

（２）令和７年度教育委員会協議会について････････････････････････････････････　95

（３）令和７年度教育委員会の活動状況･･　97

令和８年度　教育に関する事務の点検及び評価

１．点検及び評価の趣旨

「教育に関する事務の点検及び評価」は、効果的に教育行政を推進し、及び市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見を活用し点検及び評価を行うものです。今般、その結果を取りまとめましたので、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律　（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

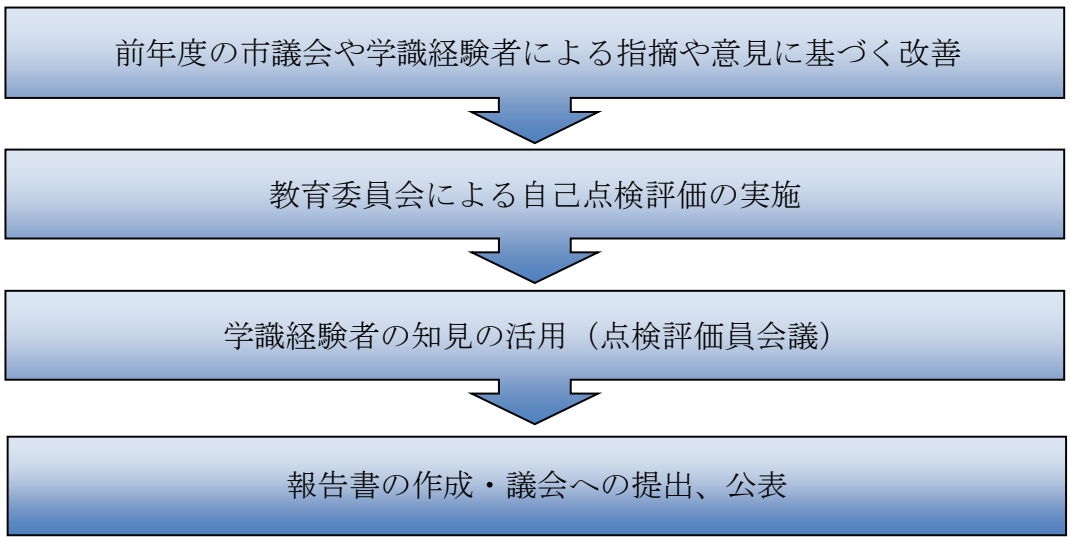
２．点検及び評価の方法

（１）点検及び評価の対象

本市教育振興基本計画に掲げる10の基本方策を具体化するための67の主要事業

（２）点検及び評価手順

令和８年度の点検及び評価は、次の手順で実施します。



（３）評価基準

令和７年度の主要事業を「達成度」と「達成度の推移」の評価基準により点検評価を行います。

・達成度：「実績値÷目標値×100」（※①）により年度ごと、主要事業ごとに算定します。
・達成度の推移：前年度（※②）からの推移に応じ、主要事業ごとに次の矢印を付記し、評価を区分しています。

達成度の推移	内　容
↗	・前年度より高い数値となった場合
→	・前年度と同じ数値だった場合
↘	・前年度より低い数値となった場合
達成継続（↗）	・達成度の割合が、前年度・今年度ともに100％以上で、前年度の達成度より高い割合となった場合
達成継続（→）	・達成度の割合が、前年度・今年度ともに100％以上で、前年度の達成度と同じ割合となった場合
達成継続（↘）	・達成度の割合が、前年度・今年度ともに100％以上で、前年度の達成度より低い割合となった場合

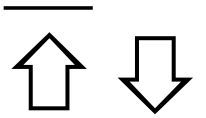
※①指標のめざすべき方向が「⇳」となっている場合は、「｛目標＋（目標－実績）｝÷目標×100」の算定式により達成度を算定します。

※②事業又は指標の性質に応じて前年度以外の過去の達成度に基づき、評価区分を定めることがあります。

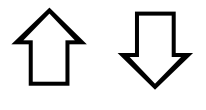
（４）その他

報告書の表中の凡例については、以下のとおりです。

●「指標」の「めざすべき方向」について



…　実績値が、目標値へ到達することをめざしています。



…　実績値が、目標値を上（下）回ることをめざしています。

●「令和７年度の取り組み実績」の表記について
・文頭に◆：事業の取り組み実績
・文頭に◇：事業の課題事項

３．評価結果（教育委員会の自己点検評価）

（１）評価結果の内訳

基本方策		主要事業	達成度	達成度の推移
基本方策１	①	小中一貫教育推進事業	100.01%	↗
	②	学校園活性化事業	100.39%	達成継続（↘）
	③	枚方市少人数学級充実事業	97.04%	↗
	④	学校ICT機器等整備業務（小中学校教育用ICT機器等整備事業）	81.77%	↘
	⑤	多文化共生教育研究事業（多文化共生教育推進事業）	104.55%	↗
	⑥	英語教育推進事業	93.40%	↘
	⑦	読書活動推進事業	96.06%	↗
	⑧	進路指導等事務	100.00%	達成継続（→）
	⑨	学力向上推進事業（放課後自習教室事業）	88.75%	↘
	⑩	学校支援社会人等指導者活用事業	90.72%	↗
	⑪	PBL（課題解決型学習）推進事業	92.75%	－（※１）
基本方策２	①	人権教育推進研究事業（人権教育推進事業）	105.00%	達成継続（↗）
	②	多文化共生教育研究事業【再掲】		
	③	帰国児童等に対する教育指導員派遣事業	100.00%	達成継続（→）
	④	小中一貫教育推進事業【再掲】		
	⑤	学校水泳授業民間活用事業	100.00%	↗
	⑥	部活動指導協力者派遣事業	86.26%	↗
	⑦	小学校給食充実事業	95.00%	→
	⑧	学校給食における地元農産物利用促進事業	106.60%	－（※２）
	⑨	食物アレルギー対応推進事業	100.00%	達成継続（→）
	⑩	学校健康管理事業	107.96%	達成継続（→）
	⑪	健康診断事業	99.45%	↘
	⑫	中学校給食充実事業	79.80%	↗
	⑬	文化財活用事業	255.17%	達成継続（↗）
	⑭	野外活動センター利用促進事業	100.00%	達成継続（↘）
	⑮	中学校給食における全員給食実施事業	98.99%	↗
	⑯	中学校部活動地域連携事業	133.33%	達成継続（→）
基本方策３	①	枚方市教職員育成事業	95.83%	↘
	②	授業の達人養成・教科研究事業	98.00%	↘
	③	学校園活性化事業【再掲】		
基本方策４	①	支援教育推進事業	93.63%	↗
	②	通学困難児童・生徒通学等タクシー支援事業	82.35%	－（※２）
	③	枚方市教職員育成事業【再掲】		
	④	就学前支援教育推進事業	100.00%	達成継続（→）

基本方策		主要事業	達成度	達成度の推移
基本方策５	①	幼児教育充実事業	100.00%	達成継続（→）
	②	学校園活性化事業【再掲】		
	③	学校支援社会人等指導者活用事業【再掲】		
	④	幼稚園保護者支援充実事業（預かり保育事業）	97.70%	↘
基本方策６	①	コミュニティ・スクール推進事業	100.00%	↗
	②	教育委員会広報事務	141.72%	達成継続（↗）
基本方策７	①	小学校安全監視事業	97.91%	↗
	②	通学路安全対策事業	97.50%	↘
	③	小中学校安全対策事業	100.00%	達成継続（→）
	④	生徒指導充実事業（枚方市生徒指導体制充実事業）	125.82%	達成継続（↗）
	⑤	いじめ問題対策事業	99.69%	↗
	⑥	スクールアドバイザー派遣事業	100.00%	達成継続（→）
	⑦	教育相談事業	98.82%	↗
	⑧	「心の教室相談員」配置事業	135.60%	達成継続（↗）
	⑨	福祉・教育ソーシャルワーク事業	96.11%	↗
	⑩	不登校児童・生徒支援事業	112.04%	達成継続（↗）
基本方策８	①	学校整備・保全事業	100.00%	達成継続（→）
	②	学校空調設備整備・維持管理事業	100.00%	－（※２）
	③	学校規模等適正化事業	100.00%	達成継続（↘）
	④	学校ICT機器等整備業務【再掲】		
	⑤	校務の情報化推進事業	75.84%	－（※２）
	⑥	小学校給食充実事業【再掲】		
基本方策９	①	社会教育活動推進事業	98.57%	↗
	②	生涯学習事業	110.93%	達成継続（↗）
	③	図書館資料購入事務	93.44%	↘
	④	図書館等巡回事業	100.00%	達成継続（→）
	⑤	中央図書館管理運営事業	100.71%	達成継続（↘）
	⑥	図書館分館管理運営事業	98.49%	↘
	⑦	図書館オンラインシステム運営事業	109.28%	達成継続（↗）
	⑧	障害者利用促進事業	100.83%	↗
	⑨	電子図書館運営事業	102.38%	達成継続（↘）
	⑩	学校図書館支援事業	119.53%	達成継続（↗）
	⑪	読書活動推進事業【再掲】		
基本方策10	①	文化財活用事業【再掲】		
	②	野外活動センター利用促進事業【再掲】		
	③	文化芸術事業	119.13%	達成継続（↘）
	④	文化財保護管理事業	100.00%	達成継続（→）
	⑤	市指定文化財補助事業	100.00%	達成継続（→）

基本方策		主要事業	達成度	達成度の推移
基本方策10	⑥	特別史跡百済寺跡再整備事業	100.00%	達成継続（→）
	⑦	市史編さん年報発行事務	113.85%	達成継続（↘）
	⑧	各種スポーツ大会等開催事業	78.54%	↘
	⑨	スポーツ推進事業	93.73%	↘
	⑩	総合型放課後事業	110.12%	↗
	⑪	枚方子どもいきいき広場補助事業	112.22%	達成継続（↗）

※１　令和７年度新規事業により、達成度の推移を測定できないため。

※２　指標の見直しにより、達成度の推移を測定できないため。

（２）点検評価の結果

令和７年度の主要事業を評価基準により点検評価を行った結果は次のとおりです。

達成度	主要事業数
100％以上	39件
80％以上 100％未満	25件
50％以上 80％未満	3件
50％未満	0件
評価不能	0件
合計	67件

達成度の推移	主要事業数
↗	28件（10件）
→	15件（14件）
↘	19件（7件）
評価不能	5件
合計	67件

※カッコ内の数字は、前年度から目標達成を継続している主要事業数を内数で示しています。

４．学識経験者の知見の活用

教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが行った点検及び評価の結果について、次の学識経験者３人を点検評価員として委嘱し、指摘や意見をいただきました。

■ 委員長　和田　良彦（四天王寺大学　副学長）
■ 委　員　浦嶋　敏之（関西外国語大学　教授）
■ 委　員　木村　典嗣（税理士）

＜点検評価員会議＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、枚方市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、２回の会議を開催しました。

点検評価員会議	開催日	案件名
第１回	令和8年7月1日	１．教育に関する事務の点検及び評価報告書案の概要について ２．点検評価員からの意見への対応について ３．その他
第２回	令和8年7月27日	１．点検評価員による基本方策ごとの評価について ２．点検評価員による総評と報告書のまとめについて ３．その他

５．点検評価員による総評

本点検評価員会議は、枚方市教育委員会の「教育に関する事務の点検及び評価」の結果について「適正」とする。以下にその理由を述べる。

本会議では、点検及び評価を行うに当たり、枚方市教育振興基本計画の基本方策に基づく各事業について、ヒアリング等を行った。

その結果、令和７年度主要事業については、継続して幅広く事業に取り組んでいること、また、昨年度の評価を踏まえ、事業内容の改善や充実、指標の見直しが図られていること、その結果について適切に自己点検評価がなされていることから、「適正」と判断した。

学校教育においては、先進的なICT活用や、子どもたちの問題解決力を高めるPBL（課題解決型学習）に積極的に取り組むなど、時代の変化を見据えた取り組みが推進されている点は大いに評価できる。また、市独自の授業の達人・授業マイスターの認定制度は、他に例のない取り組みである。新制度設計後、授業マイスターの中から授業の達人への認定制度により授業の達人認定者を育成できたことは、制度の充実とこれまでの継続的な取り組みの成果と考える。加えて、生成AIの活用等による業務の効率化により、子どもたちに向き合う時間を確保する取り組みも着実に進められている。今後は授業の達人及び授業マイスター認定者等の優れた知見を共有する仕組みづくりや実践に基づく研修の充実などにより人材育成を進めるとともに、働き方改革の推進による職場環境の整備を加速させることで、教員の魅力向上や必要な人材確保に努められたい。

支援教育や幼児教育の分野では、「ともに学び、ともに育つ」の観点からインクルーシブ教育の推進や就学前からの支援体制など、他市のモデルとなる取り組みが展開されている。枚方市の支援教育のあり方を示すものとして新たに策定された「支援教育サポートブック」の活用を進めるとともに、保護者の不安解消にもつながる幼児期からの専門員による相談支援体制を今後も継続されたい。また、公立と私立の園所の職員が合同研修を通じて、相互の取り組み方法の違いを理解しながら、共通の目標を確認していることや、預かり保育事業の実施・拡充による保護者の高い満足度も評価できる。今後は、就学前施設と小学校のよりスムーズな接続に向けて連携を推進するとともに、多様化するニーズを捉えた預かり保育の安定的な運用と拡充を期待する。

不登校等の課題に対しては、校内教育支援ルームや学校外の支援拠点である教育支援センター「ルポ」、メタバース空間など、児童・生徒の状態に応じた教育の機会が確保されている。今後も、社会的つながりの選択肢を増やす取り組みをさらに充実させられたい。

生涯学習の取り組みについては、図書館サービスの効率化・迅速化につながるICタグシステムの全分館への導入により、創出された時間を活用してレファレンスサービスに注力するなど、市民に寄り添った事業展開が図られている。今後も、図書館司書の専門的なスキルを生かした各種サービスの展開により、市民の学習機会がさらに充実されることを期待する。

総合型放課後事業の取り組みについては、三季休業期の昼食サービスや留守家庭児童会室の土曜日開室の試行実施、「枚方市留守家庭児童会室個別施設計画」の策定等により、児童の放課後の安全な居場所づくりと環境整備、保護者の就労支援として、一定の効果が表れている。今後は各種取り組みの実施・拡充に係るコストを見極めながら、持続可能で安全な児童の居場所づくりをさらに推進されることを期待する。

最後に、本報告書の基本方策に基づく各事業に対する意見を踏まえ、今後においても、各担当部署においてきめ細やかな事業展開が行われることにより、枚方市教育行政の更なる質的向上が図られることを期待する。

６．令和７年度の枚方市教育振興基本計画における事業の点検評価

基本方策１　確かな学力と自立を育む教育の充実

知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育み、将来の社会を担う人材を育成するためには、子どもの学習意欲を向上させるとともに、基礎的な学力や自ら学び考える力を伸ばしていくことが求められています。変化の激しい社会に柔軟に適応していくためにも、物事を多角的に捉え、多様な他者と協働しながら社会課題や生活課題に「新たな解」を生み出せる素養の育成が重要となります。

学校教育においては、一人ひとりの教育的ニーズを大切にし、教職員及び児童・生徒が、１人１台端末を校務及び学習に日常的に活用した個別最適で協働的な学びを進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を繰り返しながら、子どもたちの確かな学力と自立を育みます。③④⑨
また、９年間を見通した教育課程の編成、小・中学校の円滑な接続、幼保こ小等の円滑な接続を踏まえ、シームレスな学びの推進に向け、教職員の指導力や学校力の向上を図ります。①②

さらに、仮想空間やデジタル技術、ネットワークの活用が一般化された超スマート社会（Society 5.0）に対応するため、プログラミング教育の推進や情報活用能力のさらなる育成の視点も踏まえながら、ＩＣＴ活用による新しい学校教育の確立に向けた「枚方版ＩＣＴ教育モデル」や国のＧＩＧＡスクール構想に基づき、１人１台端末等のＩＣＴを活用した協働型・双方向型の授業及び個別最適化された学びの一層の推進に取り組みます。④
また、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「正解（知識）の暗記」、「正解主義」への偏りから脱却し、目の前の課題に向き合い自ら考え対処する課題解決型学習（ＰＢＬ）⑪などの子ども主体の学習活動を推進していきます。
市内大学と連携したイベントや海外の小学校とのオンライン交流など、より実践的な体験活動を通じて、国際化に対応した英語によるコミュニケーション能力を育成⑥するとともに、諸外国の文化や習慣等について理解を深める国際理解教育を推進します。⑤⑥また、学校図書館の活用による言語能力や情報活用能力の育成⑦、職業体験や社会見学、社会人による特別授業、企業等と連携して課題解決を考える取り組みなどにより、社会と関わる機会を多く作り、未来を切り開く資質・能力の育成を図っていきます。⑧⑩
さらに、感染症等の危機事象による学校の臨時休業などにも対応できるよう、オンライン授業等のＩＣＴを有効に活用した学習活動の充実を図る④など、子どもたちの「ウェルビーイング」の向上に資する新しい教育に向けた取り組みを進めます。

主要事業の状況

1-①	小中一貫教育推進事業	担当課	教職員課 教育指導課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	59,943
					決算額	46,085

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

各中学校区において、小学校から中学校への円滑な接続や、シームレスな学びの推進等に向けて、校区の現状と課題を把握し、小・中学校が連携して以下の取組みを実施している。
○学力向上の取組み
全中学校区にコーディネーターを配置し、学力向上委員会や教科会、学年会等の充実を図り、組織的な取組みを推進するとともに、学力向上・授業づくりに高い見識を有する学識経験者を招聘し、教員の授業力向上を図る。
教科会等における授業研究の推進を図るとともに、児童・生徒一人ひとりの課題を踏まえ、家庭における学習習慣の充実に努める。
○体力向上の取組み
各小・中学校で、これまで行ってきた体力テストの結果を基に、現状の児童・生徒に合わせた体力向上推進計画を作成・実践する。大阪体育大学と連携して、授業改善をはじめ児童・生徒の体力向上に向けた取組みを推進する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 小学校６年時の学校教育自己診断における質問「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対する肯定的な回答の割合と中学３年時の同質問に対する肯定的な回答	実績値［A］ （%）	小学６年生： 83.81 中学３年生： 89.79	小学６年生： 83.88 中学３年生： 90.95	小学６年生： 84.13 中学３年生： 90.93
（目標値の根拠） 小学６年生：85%以上　中学３年生：90%以上 （参考値） R6・7平均　小学６年生：84% R6・7平均　中学３年生：91%	目標値［B］ （%）	小学６年生： 85以上 中学３年生： 90以上	小学６年生： 85以上 中学３年生： 90以上	小学６年生： 85以上 中学３年生： 90以上
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B−A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	小学６年生： 98.60 中学３年生： 99.77	小学６年生： 98.68 中学３年生： 101.06	小学６年生： 98.98 中学３年生： 101.03

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

○学力向上の取り組み
◆全中学校区に学力向上に特化したコーディネーターを配置し、学力向上委員会や教科会、学年会などの校内組織の充実を図るとともに、学識経験者による講義や指導・助言を受けながら、授業改善や少人数指導など学力向上に向けた取り組みを推進した。
◆授業改善や家庭学習等の充実に向けて、各校の情報教育推進担当を中心に、ICT機器の活用を図った。

○体力向上の取組み
◆各小中学校で、児童・生徒の実態に応じた体力向上推進計画を作成し実践した。また大阪体育大学と連携した研究指定校において、体力向上に向けた取組みを実践し、２学期に１年間の取組みを公開授業と共に発表を行った。
◆ICT機器の活用による児童・生徒の体力向上事業に取組み、全小学校において中学年以降の体力向上プラン「アクションプラン」を作成し、体力向上を推進した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.01%
	市長公約	−		
	実行計画	16_01小中一貫教育の推進	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	−		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

1-②	学校園活性化事業	担当課	教育指導課 公立保育幼稚園課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	34,974
					決算額	24,793

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

全学校園を学校園活性化推進校園として指定し、教育課題の解決や教職員の資質向上を図るため、校（園）内研修の充実を進めるとともに、年1回以上教職員対象の公開授業を実施し、授業改善等に活用する。また、菊咲かそう体験事業や、枚方市小学生スポーツCarnival、小学生合同音楽会等の教育委員会が主体となる事業を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 小学校５年生時～中学校３年生時の学校教育自己診断における質問「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対する肯定的な回答の割合	実績値［A］ （%）	小学５年生：82.74 小学６年生：84.96 中学１年生：86.89 中学２年生：87.79 中学３年生：85.08	小学５年生：81.91 小学６年生：83.88 中学１年生：86.56 中学２年生：88.98 中学３年生：90.95	小学５年生：80.17 小学６年生：84.13 中学１年生：83.74 中学２年生：87.67 中学３年生：90.93
（目標値の根拠） 小学５年生～中学３年生　全学年85%以上 （参考値） R6・7平均　小学５年生：81% R6・7平均　小学６年生：84% R6・7平均　中学１年生：85% R6・7平均　中学２年生：88% R6・7平均　中学３年生：91%	目標値［B］ （%）	全学年 85	全学年 85	全学年 85
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	小学５年生：97.34 小学６年生：99.95 中学１年生：102.22 中学２年生：103.28 中学３年生：100.09	小学５年生：96.36 小学６年生：98.68 中学１年生：101.84 中学２年生：104.68 中学３年生：107.00	小学５年生：94.32 小学６年生：98.98 中学１年生：98.52 中学２年生：103.14 中学３年生：106.98

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆全69校園において設定した研究主題に沿った校内研修等を計画し、外部講師を招聘した校内研修を実施した。また、公開授業を小・中学校において順次実施した。
◆菊咲かそう体験事業における菊花展への出展については希望制とし、23校園が出展した。
◆小学生合同音楽会を11月18日から21日までの4日間、総合文化芸術センターにて開催し、全小学校が参加した。
◆枚方市小学生スポーツCarnivalを9月20日に枚方市立総合体育館において小学校1年生～6年生を対象にして実施した。（参加者数：244人）

これまでの点検評価員等からの主な意見

・指標数値が減少傾向にある。タブレット端末を使用したコミュニケーションは活発になっているとのことなので、状況が正確に伝わるよう指標の見直しや参考指標の設定を検討いただきたい。（R6点検評価員会議）

関連計画				
	第５次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	100.39%
	市長公約	－		
	実行計画	－	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↘）
	関連計画	－		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

1-③	枚方市少人数学級充実事業	担当課	教職員課・教育指導課・児童生徒課・支援教育課	事業費（千円）※人件費のみ	予算額	415,039
					決算額	306,600

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

公立小学校では、１学級35人以下の少人数学級編制を、国が段階的に拡充し、令和７年度から全学年での実施となった。本市では、小学校における少人数学級編制を充実させ、子どもたち一人ひとりに対し、きめ細かな指導を行うことで、児童への教育効果を高めるため、支援学級在籍児童を含んで１学級35人以下とする市独自の少人数学級編制を、令和７年度からは全学年で実施する。
学級数が増える学校に対して市費負担任期付教員を採用し配置する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 学校教育自己診断の共通項目①「学校生活の中で、楽しいと感じることがある。」②「あなたの学級は、1人1人を尊重し、安心できる場所である。」の肯定的回答率 【参考指標】（R5まで）全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査学校生活の中で、「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人ひとりの良い点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」の強肯定回答率	実績値［A］ （%）	― (参)61.4	①93.4% ②79.3%	①89.6% ②86.0%
（目標値の根拠） ①「学校生活の中で、楽しいと感じることがある。」の肯定的回答率93% ②「あなたの学級は、1人1人を尊重し、安心できる場所である。」の肯定的回答率88% 【参考指標】（R5まで） 対前年度比向上	目標値［B］ （%）	― (参)65	①93% ②88%	①93% ②88%
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	― (参)94.46	①100.43% ②90.11%	①96.34% ②97.73%

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆本市独自の支援学級在籍児童を含めた少人数学級編制として、小学校第１学年から小学校第６学年まで35人で実施とするため、市費負担任期付教員の採用・配置に取り組んでいる。
◆本市独自の学級編制による増学級数59学級に対し、任期付講師43人を配置した。（充足率：72.88%）
◆少人数学級編制により、教員が児童一人ひとりに関わる時間の確保が進みつつあり、きめ細かな指導や個々の状況に応じた対応の充実につながっている。
◇慢性的な講師不足により、市費講師の確保に課題がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・その効果を適切に示すことができる指標を今後も引き続き検討いただきたい。（R5点検評価員会議）
・今後は、適切な指標により事業の効果を測るとともに、指標の分析においては、否定的な回答にも着目しながら、その要因分析を踏まえ、肯定的回答率の上昇に向けた方策を講じられたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	97.04%
	市長公約			
	実行計画	16_02_子どもの確かな学力の定着を図る	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	-		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

1-④	学校ICT機器等整備業務 （小中学校教育用ICT機器等整備事業）	担当課	教育研修課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	682,700
					決算額	662,886

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・令和2年度に教職員及び児童・生徒に導入した１人１台端末を更新する。6月から9月までに教職員、生徒、児童の順に端末を切り替える。
・ＩＣＴ活用による新しい学校教育の確立に向けた「枚方版ＩＣＴ教育モデル」や国のＧＩＧＡスクール構想に基づき、１人１台端末等のＩＣＴを活用した協働型・双方向型の授業及び個別最適化された学びの一層の推進に取り組む。
・１人１台端末を効果的に活用した授業実践や好事例を市内小中学校に広く情報発信、教職員研修を通じて教職員の授業改善を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 教員のICT活用指導力チェックリスト「グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」に対して肯定的な回答をした割合 ※【】内は全国平均	実績値［A］ （%）	80.52 【75.9】	82.15 【78.2】	81.77 【未公表】
（目標値の根拠） 肯定的回答の割合100%	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	80.52	82.15	81.77

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和７年度端末更新
令和２年度に配備した１人１台端末、周辺機器及び学習支援ソフト、通信手段等について更新を実施。端末とキーボードケースやタッチペン等の周辺機器のほかセルラー通信（５Ｇ）について、教職員端末は７月１日、中学校生徒端末は９月１日、小学校児童端末は10月１日に導入を行った。
◆端末更新と同時に学習支援ソフトとデジタルドリルを整理。教職員と学校の連絡ツールも整理し統一を行った。
◆１人１台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進を図るため、具体的な事例を情報教育ポータルサイト「GiGAスク！ひらかた」で随時発信を行った。また、「枚方版ICT教育モデル（第６版）」の改訂時には、汎用的なソフトウェアやアプリケーションを活用した子どもたちの深い学びにつながる事例や、生成AI教育利用の事例を掲載し、情報発信を行った。
◆１人１台端末を探究過程の各場面において児童・生徒が効果的に活用したPBL事例や、教職員が対話や生成AIを活用してPBLの計画を立案する研修を実施した取組について、全国ICT教育首長協議会が主催する「第８回日本ICT教育アワード」において「全国ICT教育首長協議会優秀賞」を受賞した。
◇端末更新後の破損故障の対応と予備機の管理
◇１人１台端末の充実による、コンピュータ教室の在り方の検討
◇ICT活用が深い学びに寄与する実践に基づく研修の充実

これまでの点検評価員等からの主な意見

・今後とも、未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成するため、学校ICT機器等の活用の充実に取り組んでいただきたい。（R4点検評価員会議）
・先進的な取り組みを実現している１人１台端末について、契約更新においては、環境充実に向けて計画的に行っていることは評価できる。今後は、ＩＣＴ活用の影響についての様々な研究結果にも目を向けながら、デジタルとアナログを効果的に使い分ける取り組みをさらに進めていただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次 総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	81.77%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_02子どもの確かな学力の定着を図る	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	枚方版ICT教育モデル　教育の情報化に関する手引-追補版-文科省		

1-⑤	多文化共生教育研究事業 （多文化共生教育推進事業）	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	313
					決算額	193

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

学校園における在日外国人教育・国際理解教育の推進を図るため、枚方市多文化共生教育研究会において研究事業に取り組む。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 年6回開催する講演会・学習会に参加する教職員の延べ人数	実績値［A］ （人・校）	228	173	230
（目標値の根拠） 参加教職員数：220人 ※過去の参加者数を基準に目標値を設定	目標値［B］ （人・校）	220	220	220
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	103.64	78.64	104.55

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆研究委員会　５月29日　実践報告会・今年度の取組みについて
９月25日　講師「姜尚美氏」による在日外国人・国際理解についての講演会・学習会の実施。
11月３日　枚方「秋のつどい」杉中学校
１月28日　講師「北川知子」多文化共生の学校園をめざして
◆大阪府在日外国人教育研究協議会集会（北河内大会）６月21日への参加。
◆多文化共生教育研究会　９月24日

これまでの点検評価員等からの主な意見

・外国にルーツのある子どもへの支援をはじめ、すべての子どもたちが異文化を理解し、多文化を許容することが重要である。（R5点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	104.55%
	市長公約	－		
	実行計画	16_05多文化共生教育の推進	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	－		

1-⑥	英語教育推進事業	担当課	教職員課 教育指導課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	265,241
					決算額	218,364

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・全中学校に外国人英語教育指導助手（NET）、全小学校に日本人英語教育指導助手（JTE）または英語専科教員を配置し、英語を使った体験的な学習の充実を図る。また、小学校で指導する外国人英語教育指導助手（NET－E）を配置し、小学校外国語活動の指導体制の強化を図る。
・英語の4技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）をバランスよく育成するため、全市立中学校第2・第3学年の全生徒を対象に4技能の到達度を測ることができる学習アプリを活用し、生徒の英語力向上を図る。
・関西外国語大学と連携し、留学生との交流等、英語を使った体験的な活動の充実を図り、より実践的な英語力を育むため「MuChatHirakata」を実施する。
・ICT機器を活用して、本市小学校と海外の小学校とオンラインでの交流を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） アンケート調査において、「英語の授業が楽しい」と答えた児童（小学校第3学年～第6学年）及び生徒（中学校第1学年～第3学年）の割合 （参考値）中学校第３学年　CEFR　A１レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（枚方市実績）	実績値［A］ （%）	小：86.90 中：81.37 （参）62.1	小：86.98 中：81.90 （参）64.8	小：83.58 中：79.83 （参）63.8
（目標値の根拠） 児童（小）の満足度90%以上 生徒（中）の満足度85%以上 （参考値）中学校第３学年　CEFR　A１レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（大阪府の目標）	目標値［B］ （%）	小：90.00 中：85.00 （参）50.0	小：90.00 中：85.00 （参）54.0	小：90.00 中：85.00 （参）56.0
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	小：96.56 中：95.73 （参）124.20	小：96.64 中：96.35 （参）120.00	小：92.87 中：93.92 （参）113.93

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆中学校にNET19名、小学校にJTE27名及びNET-E3名を配置した。
◆全小学校に対して、小学校で指導する外国人英語教育指導助手（NET－E）を巡回配置、または、希望に応じて中学校NETを臨時で派遣した。
◆学習アプリの活用が進んでいる。全中学校第2・第3学年において、自身の到達度を測定するレベルチェックテストをほぼ全員が受験。アプリを使った取組の実践事例報告会を実施した。
◆MuChatHirakata（旧枚方英語村）を関西外国語大学にて、令和８年２月７日（土）と１４日（土）に実施した。
◆一人一台タブレットを活用して、本市小中学校と海外の小学校とオンラインでの交流を計３回実施した。
◆令和７年７月にオーストラリア連邦クイーンズランド州ローガン市と友好都市交流確認書を継続してかわす際、チゾムカレッジの生徒と枚方市立第二中学校の英語部の生徒がオンライン交流を行った。
◇慢性的な講師不足により、市費講師の確保に課題があった。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・学年があがるごとに、授業が楽しいと答えた児童数が減少している実態を詳しく分析していただき、特に小学校で英語を苦手とする児童をつくらないよう、今後も取組みを進めていただきたい。（R5点検評価員会議）
・達成度は高水準で推移しているものの、経年比較すると小学校では微減している。学年が上がっても英語を楽しく学べる授業づくりをこれからも進めていただきたい。（R6点検評価員会議）

関連計画			達成度	93.40%
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち		
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度市政運営方針		
	実行計画	16_02子どもの確かな学力の定着を図る	R6からR7の達成度の推移	↘
	関連計画	－		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

1-⑦	読書活動推進事業	担当課	教育指導課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	98,032
					決算額	103,967

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・児童・生徒の言語能力を育むため、学校司書と司書教諭が連携して、義務教育9年間を見通した読書活動の充実を図る。
・市立図書館と連携した学校図書館の環境整備、児童・生徒の読書習慣の確立、調べ学習等、授業における学校図書館の活用を推進する。
・小学校における学校図書館を活用した教育活動の支援等に向けて、学校司書確保の取組みを進めていく。
・児童・生徒が主体的に主権者として必要な資質・能力を身に付けることの重要性に鑑み、小・中学校に複数紙の新聞配備を進める。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 学校の授業時間以外に読書を「10分以上」する児童生徒の割合 ①全国学力・学習状況調査の質問紙調査より把握 ②市教委独自アンケートより把握	実績値［A］ （%）	①小：52.2 中：43.0 ②小：58.3 中：53.5	①質問肢なし ②小：56.6 中：46.1	①小：50.2 中：39.5 ②小：52.5 中：45.8
（目標値の根拠） 学校の授業時間以外に読書を「10分以上」する児童生徒の割合 ①全国学力・学習状況調査の質問紙調査より把握（全国の割合と比較） ②市教委独自アンケートより把握（前年度と比較）	目標値［B］ （%）	①全国平均以上 小：60.0 中：49.4 ②前年度より向上 小：61.0 中：53.8	①全国平均以上 （質問肢なし） ②前年度より向上 小：58.3 中：53.5	①全国平均以上 小：53.2 中：40.4 ②前年度より向上 小：56.6 中：46.1
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	①小：87.00 中：87.04 ②小：95.57 中：99.44	① — ②小：97.08 中：86.17	①小：94.36 中：97.77 ②小：92.76 中：99.35

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆学校司書配置小学校による「学校図書館を活用した取組報告書」をポータルサイト「まなViVA!ひらかた」に掲載し、情報発信を行っている。また、司書教諭・学校司書研修にて、学校図書館の活用や小中学校の好事例を具体的に紹介し、共有することで、読書活動の取組推進を図っている。取組発表では、学校司書専任配置校による発表を実施した。
◆市教委独自アンケートについて、読書の取組推進の効果が表出されやすいアンケート項目をさらに再検討し、新たに対象学年を小学２年生を追加し、小学２年生・小学４年生～中学３年生へ同アンケートを実施した。
◇各校で、読書活動の取組推進を図っているものの、アンケートでの数値としては表れにくい。学校別のアンケート結果や貸し出し冊数等の経年変化をみると、増加傾向が見られる学校があるものの、まだ、市全体としての効果とは言い難い状況である。引き続き、好事例を発信し、各学校の状況に応じた取組の推進を支援していく。
◇学校司書の配置換えにより中学校図書館環境の維持管理が困難な状況が窺える。月１回程度の学校司書による支援を実施したが、学校現場からは配置の早期実現の声が多くある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・令和3年度については、事業指標の結果から、特に小学生の読書習慣に課題が生じているため、対策を講じていただきたい。（R4点検評価員会議）
・様々な取組は行われているものの、指標となる数値は小学校では減少傾向、中学校では横ばいとなっており、目標値との開きも縮小していない。今後も、好事例の発掘と共有を行うなど、読書活動の活性化に向けて取り組んでいただきたい。（R6点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	96.06%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度市政運営方針		
	実行計画	16_02子どもの確かな学力の定着を図る	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	-		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

1-⑧	進路指導等事務	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	2,983
					決算額	2,977

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・進学意欲を有しながら、経済的な理由により就学が困難な支援を要する生徒や保護者等に対して、進路選択支援事業を特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会に委託し、奨学金等に関する相談や情報提供を実施する。
・教育活動全体を通して学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意思、意欲などを培うキャリア教育を系統的に実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 各学校の教育計画においてキャリア教育全体計画の作成、または見直し・更新を行った学校の割合	実績値［A］ （%）	100.00	100.00	100.00
（目標値の根拠） 100% （キャリア教育全体計画を作成した学校／枚方市立小中学校）	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆奨学金等に関する相談や情報提供を行っていることを、業務を受託している特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会が枚方市立中学校に周知及び案内をした。また、保護者等を対象に奨学金に係る対面での説明会を令和７年６月27日に開催（参加者21名）するとともに、枚方市教育委員会のホームページに奨学金の関係資料を掲載し、説明のための動画配信を行っている。
◆例年に引き続きキャリア・パスポートを活用したキャリア教育を全小中学校において実施している。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

1-⑨	学力向上推進事業 （放課後自習教室事業）	担当課	教育指導課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	51,347
					決算額	38,188

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

児童・生徒の学習意欲を高め、自学自習力を育むとともに、新学習指導要領で求められている資質・能力の育成を図るため、授業・課業時間外・家庭学習で学習ができる民間の学習コンテンツを利用できるように環境を整備し、学力向上の取り組みを推進する。また、放課後学習教室の開室方法を見直し、中学生対象に民間のノウハウを生かした学習教室を実施し、生徒の学習支援を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 放課後学習教室の利用率 （参加者数／登録者数×100） （参考指標1）※（参1）と表記 「来年も参加したい」と回答した生徒の割合 （参考指標2）※（参2）と表記 実人数（登録者数）	実績値［A］ （%）	66 （参1）28.5% （参2）402人	79 （参1）48% （参2）407人	71 （参1）60.6% （参2）536人
（目標値の根拠） 80% （参考指標1）前年度実績以上 （参考指標2）１校20人×19校	目標値［B］ （%）	80 （参1）48% （参2）240人	80 （参1）28.5% （参2）380人	80 （参1）48% （参2）380人
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	82.50 （参1）59.38 （参2）167.50	98.75 （参1）168.42 （参2）107.11	88.75 （参1）126.25 （参2）141.05

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆児童・生徒一人ひとりの理解度に応じて学習ができる学習コンテンツを活用しながら、授業・課業時間外・家庭学習における学習機会の充実を図っている。
◆5月から中学生対象の放課後学習教室ひらスタを開室した。8月には夏季集中学習教室を開催し、参加生徒（301名）の学習意欲の向上や基礎学力の定着などの学習支援を行った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	88.75%
	市長公約	－		
	実行計画	－	R6からR7の達成度の推移	↘
	関連計画	－		

1-⑩	学校支援社会人等指導者活用事業	担当課	教育指導課 公立保育幼稚園課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	3,913
					決算額	3,575

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

各教科の指導補助、総合的な学習の時間、特別活動など優れた知識や技能を有する多様な人材を学校教育に活用することで学校園での教育活動の活性化を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 学校支援社会人等指導者を活用した回数	実績値［A］ （回）	1,623	1,639	1,692
（目標値の根拠） 活用回数の上限	目標値［B］ （回）	1,820	1,865	1,865
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	89.18	87.88	90.72

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小・中学校において、菊の栽培、読み聞かせ、ストーリーテリング、性教育、平和教育、人権教育、伝統、和楽器、演劇、人形劇、キャリア教育（職業講話）、環境教育、稲作体験（米作り）、学習補助、昔遊びなどを実施し、教育活動の活性化を図った。
◆幼稚園においては、学校支援社会人等指導者の活用により、菊の栽培、読み聞かせ、ストーリーテリング、科学遊び、体育遊びなどを実施した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・指導者確保の工夫として、コミュニティ・スクールを活用するなど、地域にあった方法を検討していただきたい。（R5点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	90.72%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	-		

1-⑪	PBL（課題解決型学習）推進事業	担当課	教育指導課 教育研修課	事業費（千円） ※人件費は除く	予算額	—
					決算額	—

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

社会が急速に変化し、予測が困難な時代を迎える中、未来を担う子どもたちが、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協力して課題を解決していくための資質・能力を習得するため、目の前の課題に向き合い自ら考え対処し新たな解を生み出すPBL（課題解決型学習）を枚方市立小中学校で実施する。令和７年度は、小学校１校、中学校１校を旗艦校に指定し、取組状況を他校に横展開するとともに、PBLの段階的な習熟を目的とし、「PBL実践講座」「Pチャレ基礎講座」および「Pチャレ実践講座」（※）の２種類の研修講座を新たに提供する。また、有識者による伴走支援のもと、PBLに関する体系的な知識と実践力の向上を支援し、より広範な学校および教職員にPBLの導入を推進することに取り組む。
（※）Pチャレ…『PBLチャレンジネットワーク』のこと

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 学校教育自己診断「学校や社会は自分たちで変えられる」の中学３年生の肯定的な割合	実績値［A］ （%）			74.2
（目標値の根拠） 学校教育自己診断「自分の行動で学校や社会を変えられると思う」の中学３年生の肯定的な割合 （段階的な増加を目指すもの）	目標値［B］ （%）			80.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）			92.75

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小学校１校、中学校１校を旗艦校に指定し、取組状況を他校に横展開するとともに、PBLの段階的な習熟を目的とし、「PBL実践講座」「Pチャレ基礎講座」及び「Pチャレ実践講座」（※）の２種類の研修講座を新たに提供し、指導主事による伴走支援を行った結果、すべての小中学校でPBLの取組がなされるようになった。
◇PBLの取組は現状ほとんどの学校で一部の教職員が取り組んでいる。そのため、各校において学校全体で取り組んでいくことができるように、研修や伴走支援、事例の頒布などを行う必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	92.75%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_02_子どもの確かな学力の定着を図る	**R7からR8の達成度の推移**	—
	関連計画	-		

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	―	―

基本方策１に対する点検評価員による評価

「日本ICT教育アワード」における優秀賞の受賞や、PBL（課題解決型学習）推進事業を独立項目として新設する等、時代の変化を見据えた取り組みが推進されている点は評価できる。一方で、講師不足や子どもたちの読書離れといった課題も浮き彫りになっている。今後は、人材確保や働き方改革による職場環境の整備を加速させるとともに、実践に基づく研修の充実や、子どもの主体的・探究的な学びを引き出す多様な学習機会の確保等、教員の指導力向上と児童・生徒の実態に応じた取り組みをさらに強化していただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

１－③枚方市少人数学級充実事業について、子どもたちにとっての「安心できる場所」の増加は、教員が児童一人ひとりに丁寧に関わる環境が充実してきた成果であり大いに評価できる。講師不足という厳しい状況ではあるが、引き続き、本事業を推進していただきたい。

１－④学校ICT機器等整備業務（小中学校教育用ICT機器等整備事業）について、「日本ICT教育アワード」における優秀賞の受賞は素晴らしい成果である。一方で、生成AIなど先端技術への理解に教員間で差があることから、実践に基づく研修の充実や実践例の共有等の工夫による指導力向上を図られたい。また、子どもたちの生成AI利用については、すでにAIを前提とした社会となっていることから、パイロット校での知見をもとに、生成AI教育利用の実践成果の共有と普及を図りながら、子どもたちの学びの充実に寄与する活用の在り方を検討することを期待する。

１－⑤多文化共生教育研究事業（多文化共生教育推進事業）について、研修における学びを現場で生かし、校内の日本語指導体制の構築や指導の充実など、多文化共生教育の推進に努められたい。

１－⑥英語教育推進事業について、「英語の授業が楽しい」と答える割合が減少傾向にある。外国人英語指導助手（NET）の一層の活用や授業づくりの工夫等により、楽しく生きた英語を学べる機会を設けていただきたい。

１－⑦読書活動推進事業について、全国的な傾向と同様に枚方市においても、読書をする児童・生徒の割合が年々減少している。アクセスしやすい学校図書館の整備や授業との連携を図るなど、読書につながる様々な機会の確保に努めていただきたい。

１－⑪PBL（課題解決型学習）推進事業について、旗艦校での取り組みを全校に広げるとともに、今後ますます重要になってくる「課題を見つける力」・「問いを立てる力」の育成につなげていただきたい。

基本方策２　豊かな心と健やかな体を育む教育の充実

近年、子どものコミュニケーション能力や社会適応能力、体力・運動能力の低下が課題となっており、子どもの豊かな人間性や社会性、健やかな体が育まれる環境づくりが求められています。

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。一人ひとりの個性や価値観、多様化する人権課題を身近に感じ、考える機会を作ることで、全ての人の人権を尊重し、自他の生命を大切にする心を養います。①また、多様な文化を認め合い、人類普遍の理念である平和の持つ意義を学ぶとともに、国際社会に貢献する資質や態度を身に付けられる教育を進めます。②

外国籍や長く外国で居住していたなどの理由で、日本と異なる言語・文化・習慣で育った子ども等に対しては、日本語習得のための機会の提供や相談支援などを進めながら、学習の中で互いの文化を学び、尊重し合うことで、多文化共生の推進に取り組みます。②③

小・中学校期における健全な身体の育成に向け、大学との連携による効果的な体育科の授業実践や民間活力を活用した専門スタッフによる水泳指導⑤などにより、体力・技術力の向上に取り組むとともに、中学校部活動については、引き続き専門的なスキルを持つ外部人材の活用や、大学、地域活動団体との連携によって、子どもたちが継続してスポーツや文化芸術に触れ合うことのできる機会の確保に努めます。④⑥⑯

また、生活習慣の未確立やアレルギー疾患の増加等、子どもの健康に関する課題が多様化していることを踏まえ、給食を通じて、望ましい食習慣や食を選ぶ力を育むとともに、食物アレルギーに配慮した安全・安心な給食の提供など、健全な食生活の形成と健やかな体が育まれる環境づくりを推進します。⑦⑧⑨⑩⑪⑫小学校給食については、子育て世帯のさらなる負担軽減を図るため、令和６年２学期より給食費無償化に取り組んでいます。⑦中学校給食については、これまでの検証や課題整理を踏まえ、ＰＦＩ方式による新給食センターの整備などにより、令和10年２学期からの全員給食実施に向けた取り組みを進めます。⑮

さらに、豊かな心と社会性を養うため、文化・芸術に親しむ機会⑬や、自然を生かした野外活動などの体験活動を拡充します。⑭

主要事業の状況

2-①	人権教育推進研究事業 （人権教育推進事業）	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	1,642
					決算額	1,340

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

学校園が教育活動において人権教育を適切に位置づけ、校園長を中心とした組織的な指導に努め、人権教育をすすめるため、枚方市人権教育研究協議会において研究事業に取り組む。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 大阪府人権教育研究協議会等による人権教育推進のための教職員研修会等への参加人数	実績値［A］ （人）	435	431	462
（目標値の根拠） R6:420人 R7:440人 R8:460人 R9:480人 ※R6年度目標から5%ずつ増加 （参考指標）　前年度実績	目標値［B］ （人）	（参）486	420	440
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	（参）89.51	102.62	105.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆ひらがな学習会４月９日への参加
◆大阪府人権教育研究協議会夏季研究大会８月19日～20日への参加
◆第一回人権担当者会議５月28日人権担当者のチーム作り・今年度の取り組みについて、第二回６月17日レポート報告・各校レポート交流を実施
◆枚方市人権教育研究協議会　未来塾　人権をベースとした集団作り、授業づくりについての交流。人権教育をどう学校に広めているかを考える活動を６月４日・９月10日に実施
◆冬のフィールドワーク12月26日

これまでの点検評価員等からの主な意見

・研修の実施で完了するのではなく、研究事業としての成果をまとめるなど、研究の積み上げを今後に生かしていく効果的な方法に努めていただきたい。（R6点検評価員会議）
・昨年度に意見していた研究事業の成果をとりまとめたことは評価できる。研究成果は研修などで活用いただき、人権教育のさらなる推進を期待する。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次 総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	105.00%
	市長公約	－		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	－		

2-②	多文化共生教育研究事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	支援教育課

2-③	帰国児童等に対する教育指導員派遣事業	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	5,062
					決算額	8,035

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

日本語の理解が困難な帰国児童等に対して、日本語及び教科の学習の支援、学校生活における相談等を行う教育指導員を派遣し、当該児童等の孤立感の解消や学校生活への適応の促進に努めることにより、当該児童等に対する教育の充実を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 日本語指導が必要な児童・生徒に対する教育指導員派遣の割合 （派遣をしている児童・生徒数／派遣を必要とする児童・生徒数）	実績値［A］ （%）	100.00 (17/17)	100.00 (29/29)	100.00 (38/38)
（目標値の根拠） 日本語指導が必要な児童・生徒に対する教育指導員の派遣の割合が100%	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B−A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆日本語の理解が困難な帰国児童等に対して、学習の支援、学校生活における相談等を行う教育指導員を派遣した。
◆指導員が不足した言語がある場合は、関係機関（観光交流課）と連携し、市のＨＰや広報等で幅広く登録の募集を募っているところである。
◆教育指導員を派遣している言語（中国語、ベトナム語、スペイン語、ウルドゥー語、ネパール語、インドネシア語）
◇海外からの編入後、早期の適切な支援が必要であることから、編入１年目は週２回、２年目は週１回をベースとしながらも、児童・生徒の状況をふまえ、派遣回数を調整できるようにするなど、子どもの実態に応じた支援（編入直後の早期支援・派遣期間等）が可能になるように見直していく予定。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・子どもたちの実態を踏まえ、特に手厚い支援が必要とされる来日直後の子どもたちへ十分な支援がなされるよう、事業の効果的な運用に努められたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	−		
	実行計画	−	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	−		

2-④	小中一貫教育推進事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教職員課 教育指導課

2-⑤	学校水泳授業民間活用事業	担当課	教育政策課 新しい学校推進課 教育指導課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	54,308
					決算額	52,398

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・市立小学校における水泳授業について、民間施設や民間の専門スタッフを活用した取組みを進めることで、児童の泳力向上を図る。併せて、水泳授業に関連する業務の改善や、学校プール施設の老朽化に伴う維持管理、改修・改築費用の縮減などにつなげる。
・令和７年度の実施校14校※前年度実施対象校13校に加えて新規１校（津田）
・令和７年１月に策定した「小学校水泳授業民間活用に関する基本的な考え方」に基づき、庁内調整を進め、学校、事業者の意向を確認しながら全校実施に向けて取り組む。令和７年度中に全校実施に向けた年次計画を作成予定。
・現禁野小移転後の跡地活用の方針を踏まえ、新たなプール施設整備について検討を進める。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 水泳授業の委託を行った学校の数	実績値［A］ （校）	11	12	14
（目標値の根拠） 段階的に小学校の水泳授業の委託を実施する。（R8:24校、R9:34校、R10:44校） ※令和8年度以降は「小学校水泳授業民間活用の全校実施に向けた年次計画」に基づく実施校数となる	目標値［B］ （校）	11	13	14
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	92.31	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和６年度の対象校13校（※）に新たに１校（津田小）を加え、計14校で本事業を実施した。
（※）令和６年度対象校のうち、氷室小（学校へのスタッフ派遣）については、入札不調となったため同年度の事業を中止し、同校の教員により水泳授業を行った。令和７年度は当該校へのスタッフ派遣を実施。
◆令和７年１月に策定した、「小学校水泳授業民間活用に関する基本的な考え方」に基づく本事業の全校実施に向けた取り組みとして、今後の受け入れ校のマッチングに関する受け入れ施設との協議・調整のほか、学校間の水泳授業実施等に関する学校との協議・調整を行った。
◆令和８年３月に、各学校の実施予定年度等を記載した、「小学校水泳授業民間活用の全校実施に向けた年次計画」を作成した。
◆現禁野小移転後の跡地利用について、民設民営による新たなプール施設の確保に向け、関係部署等との調整を進めた。
◇民間活用後に使用しなくなる学校プールの跡地活用について、各学校プールの立地条件や地域事情などの諸条件も踏まえつつ、売却の可能性なども含め有効活用を検討する必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・費用対効果も注視しつつ、子どもたちが楽しみながら泳力向上をめざせる方策を講じられたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	令和５年度所信表明		
	実行計画	16_03 高い指導力と意欲を持つ教職員の育成	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	－		

2-⑥	部活動指導協力者派遣事業	担当課	教育指導課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	16,919
					決算額	14,634

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

部活動の活性化と充実を図るとともに、顧問教員の時間的余裕を生み生徒指導や授業研究の時間を確保するため、各中学校に専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 中学校部活動指導協力者の派遣回数 （指導協力者の派遣1回につき２時間、教員の負担軽減が図られたとみなす）	実績値［A］ （回）	5,167.5	5,463	5,736
（目標値の根拠） 派遣回数の上限	目標値［B］ （回）	6,650	6,650	6,650
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	77.71	82.15	86.26

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆延べ125名の部活動指導協力者の登録があり、市内19中学校のすべての学校で活用している。
◇部活動指導協力者に対するハラスメント等に関する研修の実施時期及び手法等の検討
◇中学校部活動地域展開に係る制度構築における部活動指導協力者の取扱いの検討

これまでの点検評価員等からの主な意見

・教員と同様に、部活動指導協力者に対しても、体罰防止等の研修の実施を検討すべきである。（R5点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	86.26%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	－		

2-⑦	小学校給食充実事業	担当課	おいしい給食課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	1,475,869
					決算額	1,484,781

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・全小学校の児童を対象に、2箇所のセンター方式の共同調理場、５箇所の親子方式共同調理場及び22箇所の単独調理場において調理、配送、食器・食缶等の洗浄、物資搬入管理、衛生・安全管理等の業務を直営または委託で実施するとともに、米飯の炊飯や配膳、検便等の業務について業務委託により実施する。
・小学校給食の無償化については、今後も継続して子育て世帯の負担軽減に取り組むとともに、引き続き学校給食摂取基準に基づいた給食提供を実施していく。
・食材料費の物価高騰相当額を枚方市学校給食会へ補助することで、児童に必要な栄養摂取量を満たした給食の安定的な提供に努めた。今後も引き続き、質を確保した給食提供に取り組む。
・学校給食の牛乳パックについては、民間事業者と連携し、リサイクルに取り組むとともに、指導担当部署と民間事業者との調整により、児童への環境啓発への取組みにつなげており、今後も継続して実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 年間の栄養量の充足率	実績値［A］ （%）	94.00	95.00	95.00
（目標値の根拠） 年間の栄養量の充足率100% ※文部科学省の示す栄養量の基準（13項目）が基準値を超えていれば100%、そうでない場合はその割合（%）を平均に算出	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	94.00	95.00	95.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆枚方市共同調理場、親子方式共同調理場及び22箇所の単独調理場において、安全で確実に学校給食を提供できた。
◆小学校給食の無償化については、令和６年度２学期より開始し、子育て世帯の負担軽減に取り組むとともに、食材料費の物価高騰相当額を学校給食費支援事業補助金により、枚方市学校給食会へ補助することで、質を確保した給食提供に取り組んだ。
◆牛乳パックのリサイクルは引き続き、関係部署等と連携を図り取り組んでいる。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・学校給食の牛乳パックのリサイクルの取組みの教育効果を高めるため、児童へのフィードバックの更なる充実を期待する。（R5点検評価員会議）

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度市政運営方針
	実行計画	－
	関連計画	－

達成度	95.00%
R6からR7の達成度の推移	→

2-⑧	学校給食における地元農産物利用促進事業	担当課	おいしい給食課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	―
					決算額	―

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

小学校給食用食材として大阪府内産を含めた地元農作物の利用促進を図っている。令和４年度より精米の納入先を切り替え、地元農産物の使用率が大幅に減少したが、引き続き枚方産及び府内産野菜の積極的な活用に取り組んでいる。今後は、献立等を工夫することにより、できるだけ多く地元農作物に触れる機会を設けるよう取り組む。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 給食実施日数に対する地元農産物の使用日数の割合 （大阪府内産・枚方産の使用日数の割合） （参考指標１） 給食実施日数に対する地元農産物の使用日数の割合 （枚方産の使用日数の割合） （参考指標2） 地元農産物の割合 （大阪府内産・枚方産の使用割合）	実績値［A］ （%）	― （参1）― （参2）5.00	― （参1）43.15 （参2）7.4	74.62 （参1）44.16 （参2）―
（目標値の根拠） 年間の地元農産物使用日数の割合目標値 （参考指標１） 年間の地元農産物（枚方産）使用日数の割合目標値 （参考指標2） 第３次枚方市食育推進計画の地元農産物使用目標値	目標値［B］ （%）	70 （参1）40 （参2）38.00	70 （参1）40 （参2）―	70 （参1）40 （参2）―
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	― （参1）― （参2）13.16	― （参1）107.88 （参2）―	106.60 （参1）110.40 （参2）―

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和７年度から目標値を「年間の地元農産物使用日数の割合」として、日々の給食にできる限り地元産の野菜類を使用するように取り組んだ。特に、玉ねぎ、青葱、じゃがいも、大根、チンゲン菜、白菜、人参、小松菜、ほうれん草など14品目の枚方産野菜を使用したほか、大阪府内産野菜もあわせると17品目の野菜を使用した。
◇食材の高騰や天候の影響により入荷困難な食材も生じてきており、安定した食材の確保が課題となっている。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	106.60%
	市長公約	-		
	実行計画	-	R6からR7の達成度の推移	―
	関連計画	-		

2-⑨	食物アレルギー対応推進事業	担当課	おいしい給食課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	―
					決算額	―

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・食物アレルギー対応の適切かつ的確な取組みを進めるため、主治医が記載した学校生活管理指導表や学校におけるアレルギー疾患対応の手引きに基づき、学校給食における食物アレルギー対応上の事故（救急搬送）件数（新規発症を除く）が０件となるよう、安全の確保に取り組む。
・中学校給食においては、毎日、８大アレルゲンを使用しない代替食を提供することで、より安心安全な給食提供を実施しており、今後も継続して取り組む。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） アレルギー対応をしている児童における事故（救急搬送）件数	実績値［A］ （件）	0	0	0
（目標値の根拠） アレルギー対応をしている児童における事故（救急搬送）がないこと	目標値［B］ （件）	0	0	0
（めざすべき方向） ⇩	達成度［C］ （％） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B−A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆学校給食における食物アレルギー対応上の事故（救急搬送）件数（新規発症を除く）が０件であり、継続して取り組んだ。また、小学校給食においては、卵、乳、エビの除去食対応、中学校給食については、毎日８大アレルゲンを使用しない対応を行っており、今後も引き続き実施していく。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

2-⑩	学校健康管理事業	担当課	学校支援課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	6,425
					決算額	5,176

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

学校園医（内科医、眼科医、耳鼻科医）、学校園歯科医、学校薬剤師、結核検診医、心臓検診医、腎臓検診医、歯科衛生士による小学校44校、中学校19校での内科、眼科、耳鼻科、歯科健康診断などの健康診断、健康相談、臨時健康相談、感染流行時の指導、学校環境衛生の維持管理及びブラッシング指導を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 「枚方市立学校園の学校園医の委嘱等に関する要綱」の規定どおりに学校園医を配置できている割合	実績値［A］ （%）	107.96	107.96	107.96
（目標値の根拠） 「枚方市立学校園の学校園医の委嘱等に関する要綱」を基に算出	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	107.96	107.96	107.96

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆市立小中学校において、内科検診・運動器検診・眼科検診・歯科健康診断を、小学校第１・３学年及び中学校第1学年を対象に耳鼻科検診を学校園医により行った。
◆結核対策委員会（６月・３月）・心臓検診協議会（９月・２月）・腎臓検診協議会（６月・10月）を年間各2回開催した。
◆学校薬剤師による空気、飲料水、プール水質（中学校部活動校のみ）、照度の検査等を実施した。
◆歯科衛生士によるブラッシング指導を各小学校で学年を決めて１学期16校で実施し、２学期27校実施した。
◆健康相談は、専門的な観点、立場から学校及び児童・生徒の支援を行った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次 総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	107.96%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

2-⑪	健康診断事業	担当課	学校支援課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	37,074
					決算額	35,046

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

全学校において学校保健安全法に基づく健康診断を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 定期健康診断の受診率（受診者数/対象者数×100）	実績値［A］ （%）	99.19	99.55	99.45
（目標値の根拠） 対象者全員	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	99.19	99.55	99.45

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆全児童・生徒対象に、結核検診、内科検診、運動器検診、眼科検診、尿検査を実施し、歯科健康診断を実施した。
◆小学校第1学年及び中学校第1学年対象に、心臓検診を実施した。
◆小学校第1・3学年及び中学校第1学年対象に、耳鼻科検診を実施した。
◆小学校第5学年及び中学校第1学年の希望者対象に、モアレ撮影検査を実施した。
◆結核検診総受診者数：27,808人、総対象者数：27,963人
◆定期健康診断の未受診者については、各学校ごとに委嘱している学校医及び学校歯科医と学校が相談し、別日の設定や学校医又は学校歯科医の診療所等で受診してもらうなどの対応をしている。
小中学校における健康診断未受診者へのアプローチについては、不登校の児童・生徒に限らず、学校保健関係教職員やクラス担任、また、教育支援ルーム指導員等を中心に、登校時の声掛け、電話やメール、受診勧奨のお知らせ文書の送付、自宅訪問などの手法により、児童・生徒やその保護者へ受診を呼びかけている。
また、不登校児童・生徒を含む未受診者の健康状態については、本市の不登校支援の観点も踏まえ、学校保健関係教職員やクラス担任、また、教育支援ルーム指導員等を中心に、電話や、自宅訪問での聞き取り、校内ルポなどの居場所での聞き取り、問診票を自宅に送付し記載していただくなどにより、把握に努めている。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・不登校児童生徒に対しても、様々な方法でアプローチされていることは評価できる。引き続き、きめ細やかな対応を行い、全員が受診できるよう努めていただきたい。（R6点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	99.45%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	-		

2-⑫	中学校給食充実事業	担当課	おいしい給食課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	515,233
					決算額	517,052

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・全中学校の生徒を対象に、第一学校給食共同調理場において調理、配送、食器等の洗浄、物資搬入管理、衛生・安全管理等の業務を委託で実施するとともに、米飯の炊飯や配膳、検便、施設の機械警備等の業務について業務委託により実施する。
・食材料費の物価高騰相当額を枚方市学校給食会へ補助することで、生徒に必要な栄養摂取量を満たした給食の安定的な提供に努めた。今後も引き続き、質を確保した給食提供に取り組む。
・学校給食の牛乳パックについては、民間事業者と連携し、リサイクルに取り組んでおり、今後も継続して実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 中学校給食の喫食率	実績値［A］ （%）	37.03	38.55	39.90
（目標値の根拠） 中学校給食の各年度目標喫食率	目標値［B］ （%）	50.00	50.00	50.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	74.06	77.10	79.80

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆第一学校給食共同調理場において調理、配送、食器等の洗浄、物資搬入管理、衛生・安全管理等の業務について、委託により滞りなく実施した。また、食材料費の物価高騰相当額を学校給食費支援事業補助金により、枚方市学校給食会へ補助することで、生徒に必要な栄養摂取量を満たした給食の安定的な提供に取り組んだ。
◆喫食率については、令和7年度の平均は39.90％となり、給食開始から最高の喫食率となった。
◆牛乳パックのリサイクルは、引き続き、関係部署等と連携を図り取り組んでいる。
◇本市の子育て世帯への経済的負担軽減の目的に基づき、食材料費の高騰分への補助を継続していく必要があるが、物価高騰の終息が見えない中、今後の方向性について財源確保や今後の国の動向も見据え、考えていく必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	79.80%
	市長公約			
	実行計画		R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画			

2-⑬	文化財活用事業	担当課	文化財課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	1,142
					決算額	1,115

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・文化財説明板の新たな設置や古くなった説明板の建替え
・文化財防火デー（市と枚方寝屋川消防組合が、文化財を所蔵する社寺等で消防訓練を実施）
・歴史講座、歴史ウォーク（市内文化財めぐり等）
・文化財の展示（輝きプラザきらら2階展示ルーム等で発掘調査の出土遺物等を展示、枚方宿での「まちかど歴史展示」）
・新旧鋳物工場を巡る「鋳物ツーリズム」
・発掘調査現地説明会
・刊行物（文化財関係図書等）の発行など
・出前講座
・古文書講座

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 歴史関連イベントの参加者数	実績値［A］ （人）	2,210	2,337	3,427
（目標値の根拠） 過去のイベント（平成18年～前年）の参加者数の平均値を目標値とする（事業統合により、令和2年度から古文書講座・楠葉台場跡の活用事業を加えた）	目標値［B］ （人）	1,258	1,309	1,343
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	175.68	178.53	255.17

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆文化財説明板の新たな設置や古くなった説明板の建替え
◆文化財防火デー（市と枚方寝屋川消防組合が、文化財を所蔵する社寺等で消防訓練を実施）　146人
◆歴史講座　324人
◆枚方まつりで大阪工業大学の協力を得てＡＲ映像を使った啓発ブースの出展　919人
◆文化財の展示（輝きプラザきらら2階展示ルーム等で発掘調査の出土遺物等を展示、枚方宿での「まちかど歴史展示」）1,085人
◆新旧鋳物工場を巡る「鋳物ツーリズム」　57人
◆発掘調査現地説明会　850人
◆刊行物（文化財関係図書等）の発行など
◆出前講座
◆古文書講座　入門：153人　中級：195人
◆カマドでご飯を炊こう　14人

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち 施策目標19　地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	達成度	255.17%
	市長公約			
	実行計画	19_01　歴史的文化遺産の活用と情報発信の充実	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↗）
	関連計画	－		

2-⑭	野外活動センター利用促進事業	担当課	スポーツ振興課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	3,805
					決算額	3,749

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

野外活動センターの利用増をめざし、学校キャンプ（日帰り･宿泊）を実施しやすくするため、企画段階からサポートを行い、学校ニーズに対応した学校キャンプの促進を図る「学校キャンプ支援事業」を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 施設の市内小中学校のキャンプ利用件数（日帰り・宿泊）	実績値［A］ （件）	19	23	21
（目標値の根拠） R6年：20件、R7年：21件、R8年：22件、R9年：23件 事務事業実績測定と同様に、R6年度に前年度実績を目標値とし、毎年1件ずつ増加を目指す。	目標値［B］ （件）	19	20	21
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	115.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和７年度の学校キャンプは21件となり、昨年度に比べ減少となった。要因の一つに、市内中学校の利用が例年は3～5校程度あったが、令和7年度は1校に留まったことが挙げられ、校外学習の目的地が大阪・関西万博博覧会に移ったことが理由ではないかと考えられる。
◇学校キャンプの支援では、全国的なバス運転手の不足によりバスの確保が困難な状況に加え、燃料費の高騰等によるバス料金の値上げが課題となっている。このため、学校の希望する日程での調整が困難であり、学校ニーズに十分な対応ができていない。
◆市内小中学生の利用促進を図るとともに、より利用しやすい施設となるよう、サウンディング型市場調査を実施し、「野外活動センターのリニューアルに向けた対応方針（中間報告）」を取りまとめた。今後は、本方針で定めた優先課題の検討を進め、令和８年度中に今後の方針をとりまとめ、リニューアルに向けた取り組みを進めていく。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	達成度	100.00%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	17_04 スポーツ活動の推進	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↘）
	関連計画	-		

2-⑮	中学校給食における全員給食実施事業	担当課	おいしい給食課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	28,827
					決算額	28,826

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・学校給食は、子どもたちに栄養バランスのとれた食事を提供し、健康増進や体位向上を図るだけではなく、食育の教材として活用することで生涯にわたる豊かな食生活を培うものであることから、中学校の全員給食を行い、より豊かな学校生活をめざす。
・令和６年度はアドバイザリー委託において、新給食センターの整備をＰＦＩ方式で進めていく上で必要な実施方針や要求水準書を作成するとともに、枚方市立中学校全員給食事業ＰＦＩ事業者選定審議会を開催し事業者公募に向けての取組みを進めたが、事業者の参加表明がなかった。今後は、公募等の内容や今後の進め方等についての検証を進め、できるだけ早期に中学校全員給食が実施できるよう取組みを進めていく。

【整備項目】
①配膳室エアコン設置、②備品購入、③懇話会開催、④今後の方針の決定、⑤方針に基づく計画の作成、⑥学校への説明、⑦第一共調設計委託、⑧可能性調査、⑨アドバイザリー委託、⑩第三共調解体・設計、⑪配膳室拡張設計委託、⑫第三共調工事、⑬配膳室拡張実施工事、⑭第一共調改修工事、⑮物品・大型備品等の購入

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 持続可能な中学校給食の運用開始に必要な整備達成率 ※「整備項目」は「事業概要」の①～⑮のとおり	実績値［A］ （%）	47.33 （指標①②③④⑤⑥⑧⑨）	49.33 （指標①②③④⑤⑥⑧⑨）	58.70 （指標①②③④⑤⑥⑧⑨⑪）
（目標値の根拠） 各年度の整備達成率	目標値［B］ （%）	60.00 （指標①～⑨）	51.33 （指標①②③④⑤⑥⑧⑨）	59.3 （指標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪）
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	78.88	96.10	98.99

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆入札の再公募に向け事業者へのサウンディング調査を行い、その調査結果を基に関係部署等と連携し、公募内容やスケジュール等の見直しを行った上で事業者公募を行ったが、参加表明がなかった。
◇改めて、サウンディング調査等での検証や、要件等の再整理など事業者の再公募に向けたさらなる見直しが必要である。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	98.99%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	15_01小学校の給食無償化	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画			

2-⑯	中学校部活動地域連携事業	担当課	教育指導課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	15,482
					決算額	8,879

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

中学校部活動の在り方については、スポーツ庁及び文化庁において策定された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえて、本市の実情に沿った「ひらかたモデル」としての部活動の方針の改訂に向けて、枚方市中学校部活動の在り方懇話会や関係課で組織する庁内委員会において協議、検討を進めていく。
令和７年度は、令和６年度の試行実施における検証を基に、「ひらかたモデル」の策定に向けて、意見聴取会である有識者、保護者、学校長、関係団体からなる枚方市中学校部活動の在り方懇話会の開催、及び学校内外における地域クラブ活動の更なる試行実施等を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 外部指導員等の指導により運営する中学校部活動及び地域クラブ数	実績値［A］ （クラブ）		8	12
（目標値の根拠） 外部指導員等の指導により運営する中学校部活動及び地域クラブ数 （本市の地域実情や国の動向等を踏まえ段階的に数値を設定）	目標値［B］ （クラブ）		6	9
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）		133.33	133.33

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆中学校部活動の在り方について、スポーツ庁及び文化庁において策定された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえて、本市の実情に沿った今後の枚方市の部活動の在り方に向けて、枚方市中学校部活動の在り方懇話会や関係課で組織する庁内委員会において協議、検討を進めている。
◆令和７年度は試行実施として、部活動指導員（会計年度任用職員）を４中学校４クラブに配置及び市内３大学の４クラブにおいて小・中学生の受け入れを実施した。また、委託事業者による指導者派遣を休日（土・日・祝日）において１中学校３クラブへ実施した。市認定クラブの制度設計を行い、１クラブを市認定クラブに認定した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・地域の実態に即した実施が求められ、多くの課題がある事業だが、今後も地域移行に向けて、試行錯誤しながら取り組みを進めてほしい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	133.33%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度市政運営方針		
	実行計画	16_03_高い指導力と意欲を持つ教職員の育成	**R5からR6の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
⑫中学校給食充実事業	申し込み忘れ等にも柔軟に対応し、利便性の向上に努めるなどをした結果、喫食率は、下がることなく過去最高の39.6％となるが、目標値50％には達することができなかった。	中学校の全員給食の早期実現に取り組むとともに、利用しやすく魅力のある給食提供を検討しながら喫食率の向上に取り組んでいく。

基本方策２に対する点検評価員による評価

定期健康診断における未受診者へのきめ細かなアプローチや、物価高騰が続く中での学校給食費の補助等、児童・生徒の安全・安心な学校生活や健康を支える取り組みが進められている。今後も、取り組みを充実させながら、子どもたちの豊かな人間性や社会性、すこやかな体が育まれる環境づくりに努められたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

２－⑥部活動指導協力者派遣事業について、他の自治体の動向も含め、枚方市の現状に合った持続可能な在り方を模索されたい。

２－⑪健康診断事業について、不登校児童・生徒を含めた定期健康診断未受診者に対して継続的に様々な方法でアプローチしていることは評価できる。対象者全員が受診できるよう、関係機関と連携して、引き続き、きめ細かな対応に努めていただきたい。

２－⑫中学校給食充実事業について、物価高騰が続く中、保護者負担を増やすことなく、食材の切り替えなどの工夫により栄養摂取基準を満たした献立作成に今後も努めていただきたい。

基本方策３　教職員の資質と指導力の向上

本市においては、経験豊かな多くの教職員の退職が続く中、教職員の世代交代が進んでおり、倫理観・規範意識及び子ども理解と集団づくり、授業力やマネジメント力等、教職員一人ひとりの資質と指導力の向上が求められています。

「『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ」ことを目標に、本市の教育課題に即した独自のカリキュラム（指導計画）で「研修履歴を活用したキャリアステージに応じて学び続ける教職員の育成」「『Hirakata授業スタンダード』に記載されている授業計画時に大切にしたい５つのＣの視点に基づいた授業改善」「人権尊重に基づいた子ども理解と、認め合い高め合う集団づくりへの支援の充実」「課題解決型学習（Project Based Learning［ＰＢＬ］）による授業改善」を重点項目とした教職員研修の充実を図り、教職員の資質・指導力の向上をめざします。①

また、教育的愛情にあふれ、高い意欲と優れた指導力を有する教職員を育成するため、授業の達人・授業マイスターによる研究授業等により、授業改善につなげる②ことで、子どもたちの「確かな学力」と「生きる力」を育みます。このため、教育委員会の学校支援機能を充実させる①③とともに、子どもと向き合う時間の確保や学校教育の水準の維持・向上に資するため、教職員が、健康でやりがいを持って生き生きと勤務できるよう、業務量を適切に管理するとともに心理的安全性のある職場づくりを強化する等、学校の働き方改革を推進します。

さらに、「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善や、「カリキュラム・マネジメント」等の組織運営改善に係る教育課題に対応した研修のほか、教職員研修に関する最新の情報や資料、研究校の実践などを確認できるポータルサイト「まなＶｉＶＡ！ひらかた」の活用促進などで指導力の底上げを図ります。①また、情報活用指導力の育成のため、ＩＣＴ活用のねらいを明確にした教職員のＩＣＴ活用指導力の向上に係る研修にも取り組みます。

主要事業の状況

3-①	枚方市教職員育成事業	担当課	教育研修課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	10,227
					決算額	7,371

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

平成26年度からの中核市移行により、従来大阪府教育委員会が実施してきた府費負担教職員研修の初任者研修や10年経験者研修等の法定研修をはじめとする各種研修の多くを本市教育委員会が実施。「『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ」ことを目標に、「研修履歴を活用したキャリアステージに応じて学び続ける教職員の育成」『Hirakata授業スタンダード』に記載されている授業計画時に大切にしたい５つのＣの視点に基づいた授業改善」「人権尊重に基づいた子ども理解と、認め合い高め合う集団づくりへの支援」「課題解決型学習(Project Based Learning［ＰＢＬ］)による授業改善」の４点を重点項目とし、「基本研修」及び「専門研修」を計画・実施。学習指導要領を踏まえた授業づくり、授業改善及び教員の授業力の向上等に向け、指導主事や教育推進プランナー等（学校教育に関して高い見識や経験を有する校長経験者等）が学校園を訪問し、初任期教職員への指導助言、校内研修等での指導助言、学校運営への支援を実施。枚方市が取り組んでいる「教育」を広く市民に情報発信するとともに、今後の枚方の「教育」の方向性について市民と共有する場として「ＧＩＧＡフェス」を実施。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 受講後のアンケートにおいて、その研修内容について、各学校園の会議等で実効的な伝達や授業等で効果的な実践をしたと回答した割合	実績値［A］ (%)	96.01	96.87	95.83
（目標値の根拠） 100% （研修の実質的効果）	目標値［B］ (%)	100	100	100
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ (%) ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	96.01	96.87	95.83

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆「『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ～子どもの学びと教職員の学びは相似形『研修観の転換』による、新たな教職員の学びの姿の実現～」をテーマに、「研修履歴を活用したキャリアステージ（育成指標）に応じて学び続ける教職員の育成」「『Hirakata授業スタンダード』に記載されている、授業計画時に大切にしたい５つのＣの視点に基づいた授業改善」「人権尊重に基づいた子ども理解と、認め合い高め合う集団づくりへの支援の充実」「課題解決型学習（［ＰＢＬ］Project Based Learning)による授業改善」の４点を重点目標とし、「基本研修」「職務研修」「専門研修」「パッケージ講座」を計画・実施した。
◆学習指導要領を踏まえた授業づくり、授業改善及び教員の授業力の向上等に向け、指導主事や教育アドバイザー等（学校教育に関して高い見識や経験を有する校長経験者等）が学校園を訪問し、初任期教職員等への指導助言、校内研修等での指導助言、学校運営への支援を実施した。
◆枚方市が取り組んでいる「教育」を広く市民に情報発信するとともに、今後の枚方の「教育」の方向性について市民と共有する場として、「未来社会を生きるすべての子どもたちが、可能性に挑戦することについて、発表や体験を通じて感じる機会とする。」「枚方市内の小中学生が PBL の実践発表をとおして、探究的な学びの実現を広くアピールする。」ことを目的に「GIGAフェス2025」を令和８年２月８日に実施した。
◆令和７年度は、１～10年目教諭に対し法定研修の一環として計画的に研修において支援教育の内容を扱うとともに、全学校園悉皆の支援教育担当者研修を年間3回実施し、枚方市の支援教育の方向性についての理解等、教職員の質の担保を図った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・その効果を直接的な数値として見ることは困難である。しかし、児童生徒・保護者を対象とした授業アンケートでは、教員と児童生徒との良好な関係や、教員の頑張りや指導力についての評価が高まってきたそうである。この傾向については、間接的ではあるが事業の成果が表れたものと見なすことができるのではないかと考える。今後とも、児童生徒、保護者に信頼される教員の育成に取り組んでいただきたい。（R4点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	95.83%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度市政運営方針		
	実行計画	16_02子どもの確かな学力の定着を図る	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画			

3-②	授業の達人養成・教科研究事業	担当課	教育研修課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	500
					決算額	120

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

児童・生徒の確かな学力を育むため、高い指導力のある優れた教員の育成を図ることを目的とした「授業の達人養成講座」を実施。２年間の講座受講後、授業マイスターの認定試験を行う。授業マイスターは、示範授業、実践発表を一定の回数行い、その後、授業の達人の認定試験を受けることができる。

●授業の達人養成講座（※段階的に「達人」に認定するシステムを構築する）
・外部講師として年間を通じて大学教授等、教育のスペシャリストを招聘。
・教材研究、学習指導案の検討を行い、年2回の研究授業（公開授業）を実施。
・先進地域、先進校への視察を実施。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 受講後のアンケートにおいて、その研修内容について、各学校園の会議等で実効的な伝達や授業等で効果的な実践をしたと回答した割合	実績値［A］ （%）	99.31	99.08	98.00
（目標値の根拠） 100% （研修の実質的効果）	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	99.31	99.08	98.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆豊かな人間性と高い専門性を有する優れた教員（「授業マイスター」「授業の達人」）を養成することを目標に、授業の達人養成講座を実施した。
◆令和７年度は、２年継続研修の２年目として、Hirakata授業スタンダードを体現できる教員の育成に向けて、また、受講者が枚方市のモデルとなる授業を展開できるよう、『授業の達人養成講座』を計画どおり全１２回実施した。
◆授業マイスター及び授業の達人の認定までの流れ、実施要項、認定基準等を見直し、制度設計を行った。その制度にのっとり、令和7年度、授業マイスターに9名、授業の達人に１名を認定した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・その効果を直接的な数値として見ることは困難である。しかし、児童生徒・保護者を対象とした授業アンケートでは、教員と児童生徒との良好な関係や、教員の頑張りや指導力についての評価が高まってきたそうである。この傾向については、間接的ではあるが事業の成果が表れたものと見なすことができるのではないかと考える。今後とも、児童生徒、保護者に信頼される教員の育成に取り組んでいただきたい。（R4点検評価員会議）
・「授業の達人養成講座」の受講者の理解度・満足度がともに100%であることは評価できる。今後は、受講者の研修内容の伝達度に着目した指標を設定することについて、検討をお願いしたい。（R5点検評価員会議）
・マイスター認定後、達人認定までの基準に関してロードマップを作成し明確化したことは評価できる。認定に向けて適切なフォローを行いながら、質の高い教育を実践する教員の育成に取り組んでいただきたい。（R6点検評価員会議）
・今後も、見直しを行った達人認定の基準をもとに、指導力の高い教職員の育成に取り組まれることを期待する。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	98.00%
	市長公約	-		
	実行計画	16_03高い指導力と意欲を持つ教職員の育成	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	-		

3-③	学校園活性化事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教育指導課 公立保育幼稚園課

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	―	―

基本方策３に対する点検評価員による評価

枚方市独自の授業の達人・授業マイスターの認定制度が着実に運用されている点は成果として認められる。今後は、授業の達人・授業マイスターの具体的な活用方法をさらに検討し、優れた知見や技術を効果的に他の教員へ共有できる仕組みづくりを強化していただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

３－②授業の達人養成・教科研究事業について、認定された授業の達人・授業マイスターの活用や活躍の場を広げることにより、指導力の高い教員の育成に取り組んでいただきたい。

基本方策４「ともに学び、ともに育つ」教育の充実

障害の有無にかかわらず、全ての子どもたちが学校・地域社会の中で積極的に交流・活動し、「ともに学び、ともに育つ」という観点から、障害への理解の促進や、ともに育つ環境づくり等を踏まえた教育を推進する必要があります。また、支援教育を進めるにあたっては、一人ひとりの自立に向けた効果的な指導・支援の充実が求められています。

障害のある子どもと障害のない子どもが交流や共同学習を通じ、ともに学び、互いを理解する教育を一層充実させるとともに、全ての学びの場における子どもたちの過ごしやすさを検討し、ユニバーサルデザインによる授業づくりに取り組みます。

障害のある子どもの教育機会の確保や自立と社会参加の推進に当たってのコミュニケーションの重要性に鑑み、ＩＣＴの活用も含め、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教科書、教材、支援機器等の活用を促進します。[①]また、通級指導教室については、特別支援教育支援員の配置拡充によるサポートの充実を図るとともに、他校に移動することなく時間割の中で通級による指導を受けることが可能な自校式通級指導教室の拡充を図ります。[①]

また、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境の整備を進める[②]とともに、支援教育に関する教職員研修の充実に取り組みます。[③]

さらに、専門的な知識・技能をもつ相談員が市内幼稚園、認定こども園を訪問して教育相談に応じる幼稚園巡回相談や、就学前の幼児を対象とした言語訓練指導など、個に応じた指導、支援を通じて就学前から各園、家庭と連携して支援教育の充実を図っていきます。[①④]

配慮を要する子どもについて、支援教育コーディネーターを中心に、教育支援ツールなどを活用して、より効果的・効率的に個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・見直しを行うとともに、引き続き、保護者、支援学校等の関係機関と連携し、支援が必要な全ての子どもについて全教職員の共通理解のもと、学校全体で一人ひとりの状況に応じた支援教育の充実に取り組みます。[①]

また、学識経験者や教職員、市民で構成される支援教育充実審議会で議論を深め、専門的・多角的な視点をもって支援教育の充実を図っていきます。[①]

主要事業の状況

4-①	支援教育推進事業	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	475,561
					決算額	427,671

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・小中学校の支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動を支援するために、非常勤講師を加配する。
・令和５年度から開催している枚方市支援教育充実審議会については、令和6年度に中間報告、令和7年度は最終年度として答申をいただく。答申を踏まえて「（仮称）枚方市の支援教育の在り方」の策定をめざす。
・障害のある児童・生徒の適切な就学及びその後の個別の教育支援計画の策定等に際し、医学、心理学、教育学の専門家（枚方市教育支援アドバイザー）より助言を受け、支援教育の充実を図る。
・肢体不自由児介助員を配置し、小中学校の肢体不自由学級に在籍する児童・生徒の生活、学習等の介助を行う。
・学校看護師を配置し、小中学校の医療的ケアを必要とする児童・生徒の日常生活を支援する。
・通級指導教室を設置した小中学校の支援を要する児童・生徒の生活、学習等の補助を目的として、支援教育支援・介助員（発達担当）、支援教育補助員（発達担当）の配置を行い、通級指導教室未配置校についても配置を進める。令和7年度については、全中学校に2名配置をめざす。
・通常の学級に在籍する発達障害等の児童･生徒への支援に関し、学校に専門家を派遣し指導・助言する。
・支援学級在籍の児童を対象に、馬とふれあい、豊かな心の育成を目的として自立のための支援を行う。
・肢体不自由児童・生徒に対し理学療法士による専門的な機能回復訓練を実施する。併せて支援学級担任に対して日常訓練の指導・助言を行う。
・車椅子で移動が必要な児童・生徒が在籍する学校に対して、階段の昇降に必要な「階段昇降車」を貸与する。
・通級指導教室において、指導に必要な教材や備品等の整備を行う。
・支援学級入級児童･生徒に対する備品購入及び新設支援学級の設備整備を行う。
・効果的なアセスメントを実施し、適切な教材を選択できるようにするため、全小中学校に導入した教育支援ソフトを活用して、児童・生徒一人ひとりに個別最適な指導を行う。
・支援教育の向上、発展に寄与する研究会に参加し、本市の支援教育のより一生の充実に努める。
・支援教育課職員が、学校園、保育所(園）、幼稚園、医療機関等を巡回し、就学相談を実施する。
・通級指導教室の全校設置に向けて、設置校の取組や効果的な学びの場の選択について発信する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 支援教育に関する専門的な知識･技能をもつ専門家の派遣割合 （利用したい時に利用できた者数÷利用者数×100）	実績値［A］ （%）	88.90	91.30 (105/115)	93.63 (147/157)
（目標値の根拠） ニーズに応じ、小･中学校専門家、理学療法士リーディングチーム等の派遣を行う。 （利用したい時に利用できた者数÷利用者数×100）	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	88.90	91.30	93.63

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆通常の学級に在籍する発達障害等の児童・生徒の支援に関し、山田小、枚方小、殿山第二小に専門家を派遣し、指導・助言した。また、支援教育課職員が、学校園、保育園所、幼稚園、医療機関等を巡回し、就学相談を実施した。
◆小中学校の支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動を支援するために、44小学校、19中学校すべてに非常勤講師を加配した。
◆肢体不自由児介助員を27人（通年・短期）配置し、小中学校の肢体不自由学級に在籍する児童・生徒の生活、訓練、学習等の介助を行った。また肢体不自由児童・生徒に対し理学療法士による専門的な機能回復訓練を実施し、併せて支援学級担任に対して日常訓練の指導・助言を行った。
◆学校看護師を33人（通年・短期）配置し、医療的ケアを必要とする児童・生徒の学校における日常生活を支援した。
◆特別支援教育支援員を86人（通年・短期[支援教育補助員]）配置し、発達に課題のある児童・生徒の学習の補助や学校生活における介助を行った。
◆支援学級入級児童・生徒に対する備品購入及び新設支援学級・通級指導教室の設備整備を行った。
◆枚方市支援教育充実審議会を6回開催し、本市の支援教育の充実について、審議を行い答申を受けた。
◆今後の支援教育のあり方を示すため、令和8年3月に、支援教育サポートブックを策定した。
◇支援を必要としている児童・生徒に見合う人員（学校看護師、肢体不自由児介助員、特別支援教育支援員）の確保が課題で、特に肢体不自由児の介助に従事する肢体不自由児介助員の人員不足、医療的ケアに従事する学校看護師の人員不足が顕著である。
◇支援を必要としている児童・生徒が年々増加しているため、消耗品費、庁用器具費の確保が必要である。
◇車イス等による移動に介助が必要な児童・生徒が在籍する学校には、階段昇降機を配置しているが、学校施設のエレベーター整備等に関する方針等に基づき、引き続き学校設備の充実に向けて取り組んでいく必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・他市のモデル事業となるよう、今後も引き続き、一人のひとりの教育的ニーズを大切にした「ともに学び、ともに育つ教育」の実現に向け、取組みを進めていただきたい。（R5点検評価員会議）
・自校式通級指導教室を導入するなど、今後の通級指導教室の拡充に向けての取り組みを進めていることは評価できる。また、支援教育充実審議会の答申を踏まえた今後の取り組みについても期待したい。（R6点検評価員会議）
・枚方市支援教育充実審議会での議論を踏まえた今後の支援教育の方向性に沿った取り組みを進めるなど、引き続き、支援教育の充実に尽力されたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第５次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	93.63%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_08全小中学校に通級指導教室を設置、支援教育の推進	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	－		

4-②	通学困難児童・生徒通学等タクシー支援事業	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	2,595
					決算額	3,899

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・小中学校に在籍する肢体不自由児や腎炎・ネフローゼ児等通学が困難な児童・生徒のタクシー利用による通学費用に対して、支援金の交付を行う。
・市内に在住する支援学校等に在籍する通学が困難な児童・生徒のタクシー利用による通学費用に対して、支援金の交付を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 通学タクシーを利用したい時に利用できた割合 (参考指標) タクシーを利用した児童・生徒の人数	実績値［A］ (%)	－ (参)28人	－ (参)33人	82.35 (14/17)
（目標値の根拠） 100% （利用したい時に利用できた者数÷利用者数×100） (参考指標) 年度当初の通学タクシー利用申請人数	目標値［B］ (%)	－ (参)30人	－ (参)30人	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ (%) ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	－ (参)93.33	－ (参)110.00	82.35

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

利用を希望する児童・生徒に対して、本事業を実施することで適切な支援を行うことができている。
◆毎日利用している児童・生徒　９人
　小学生５人、中学生３人、支援学校生１人
◆雨天時など必要に応じて利用している児童・生徒　26人
　小学生23人、中学生３人
◇本事業の趣旨を理解・賛同して、協力依頼に応じるタクシー会社が少ない。そのため、利用したい時に利用できたと応えた割合が82%となった。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	82.35%
	市長公約	－		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	―
	関連計画	－		

4-③	枚方市教職員育成事業【再掲】※基本方策3に記載	担当課	教育研修課

4-④	就学前支援教育推進事業	担当課	公立保育幼稚園課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	5,731
					決算額	5,224

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・幼稚園巡回相談を実施し、発達障害等があり教育的支援を必要とする幼児への個に応じた指導について、専門的な知識・技能をもつ相談員を市立幼稚園及び市内の私立幼稚園・認定こども園に派遣する。相談員が教職員への指導・助言を行うとともに保護者からの教育相談に応じることにより、各園及び家庭との連携を通して、支援教育の一層の充実を図る。
就学前の幼児を対象とした言語訓練指導（幼児ことばの教室）を実施し、吃音、構音障害など、主に言語面に課題がある5歳児を対象に、元小中学校通級指導教室担当の指導員が個別指導を行う。
・幼稚園に在籍する個別の支援や配慮を要する幼児への指導・支援に関し、特別支援加配員（旧：支援教育担当）及び生活支援員を配置する。また、医療的ケアを必要とする園児への日常生活の支援をする為、看護師を配置する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 支援が必要と認められた園児に対する支援率 （加配をしている園児数/支援を必要とする園児数×100）	実績値［A］ （%）	100.00	100.00	100.00
（目標値の根拠） 支援が必要と認められた園児に対する支援率100%	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆発達障害等があり教育的支援を必要とする幼児や保護者に対して相談員を派遣するととともに、主に言語面に課題がある５歳児を対象とした言語訓練指導を実施した。
◆市内の公私立幼稚園及び認定こども園に対し、相談員を派遣した回数：371回
◆幼児ことばの教室の実施回数：221回
◆支援等が必要な幼児に対し、支援教育担当職員及び生活支援員を配置した。
・支援教育担当の配置状況：44名
・生活支援員の配置状況：16名

これまでの点検評価員等からの主な意見

・専門員の巡回等による幼児や保護者に対する相談支援が重要であり、家庭に寄り添った支援を進めていただきたい。（R4点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	-		
	実行計画	15_01子どもが安心して教育・保育を受けられる環境づくり	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	－	－

基本方策４に対する点検評価員による評価

インクルーシブ教育の推進や就学前からの支援体制等、枚方市の特徴である支援教育において、他市のモデルとなる取り組みが展開されている。今後は、「支援教育サポートブック」の活用を進める等、成果を積極的に展開していただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

４－①支援教育推進事業について、令和８年３月に策定された「支援教育サポートブック」は非常にわかりやすくまとめられている。今後は研修等を通じて内容の理解促進を図り、様々な場面で活用されるよう取り組まれたい。

４－④就学前支援教育推進事業について、支援が必要な子どもが増加する中、幼児期から専門員の巡回等による相談支援体制を整えていることは他の模範となる取り組みであり、今後も継続されたい。

基本方策5　幼児教育の充実

少子化の進行、核家族化や男女共同参画社会の進展、ひとり親家庭の増加等、子どもの育ちや子育て支援へのニーズが多様化する中で、子どもの生きる力と個性を育む環境が求められています。幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を養う重要なものであり、様々な体験を通して幼児が心身ともに健やかな成長をとげられるよう、幼児一人ひとりの発達や特性に応じた取り組みを進める必要があります。

幼児教育の目的は「生涯にわたる人格形成の基礎を養う」ことであり、令和元年度から市立幼稚園で拡充した３歳児保育などに引き続き取り組みながら、「幼稚園教育要領」にある、自立心や協同性、道徳性などの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実現するため、幼児一人ひとりの望ましい発達を促すとともに、学級集団に応じた適切な指導を行います。①②③また、小学校区ごとに作成する「架け橋コンパス」を活用した、幼保こ小の架け橋プログラムの取り組みや、就学前児童と小学生の交流体験、職員の合同研修などを通じて幼児期（幼稚園・保育所（園）・認定こども園等）と児童期（小学校）の教育の円滑な接続・連携を図り、学びや発達の連続性を踏まえた取り組みを推進します。①

幼稚園での預かり保育については、受け入れ定員の拡大や実施時間の延長などの充実を図ってきており、今後も引き続き、保護者の心身のリフレッシュや就労支援等のニーズに対応できるよう取り組みます。④

また、地域の未就園児も含めた親子での遊びの場の提供や、保護者交流の場の提供、さらには子育て相談の取り組みを推進します。①④

主要事業の状況

5-①	幼児教育充実事業	担当課	公立保育幼稚園課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	588
					決算額	509

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

幼児教育の充実を図ることを目的とし、小学校へのなめらかな接続をめざした幼小連携の推進や、幼児に豊かな心を育む多様な体験の機会の提供、また、地域の幼児教育のコーディネーター的な役割が果たせるよう、小学校・私立幼稚園・認定こども園・公私立保育所（園）等と連携を図るとともに、未就園児親子が参加できるイベントや子育て講座の開催、育児相談等に取り組む。また、幼保こ小の架け橋プログラム事業の取り組みとして、市がコーディネーターの役割を担いながら、地域就学前児童施設や小学校との関係の構築を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） ①及び②を達成した幼稚園数 ①幼稚園児が小学校生活に親しみ、入学への期待が持てるような活動（学校見学・授業見学・児童との交流・給食体験など）を、年間を通して5回以上実施する。 ②幼稚園職員と小学校職員が、互いの教育内容や子どもの姿を理解し、教育課程を滑らかにつなぐための合同研修や連携会議を、年間を通して2回以上開催する。	実績値［A］ （園）	6	6	6
（目標値の根拠） すべての市立幼稚園において①及び②を達成する	目標値［B］ （園）	6	6	6
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小学校の空き教室での給食体験や、校庭での散歩及び小学校の教員による授業体験など、幼児が小学校生活に期待や親しみが持てるような活動を実施した。また、併せて幼保こ小連携推進に関して、架け橋期における幼児期や児童期の育ちについて教職員等で合同研修を行ったり、互いの授業を視察できる場を設けるなど、教育・保育内容の相互理解を図った。
◆各幼稚園・保育所（園）にて見学会を実施し、それぞれの施設や保育内容について周知する機会を設けた。また、子育てに不安がある保護者からの育児相談に対して個別に対応した。
◆「幼保こ小の架け橋プログラム事業」の取り組みとして、架け橋プログラムに関する全体会を開催するとともに、連携体制を構築していくための会議を校区ごとに開催することで、各校区版の架け橋コンパス（カリキュラム表）の見直しや交流活動、合同研修等が計画的に実施されるようになってきている。なお、本事業が始まった令和４年度当初は、就学前施設における公立と私立において取り組み姿勢に違いがあったが、公立と私立で連携を図りながら、校区ごとの就学前施設同士の交流活動や架け橋コンパスの見直しの他、公私合同の研修などに取り組むことで、取り組み姿勢の違いは改善されつつある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・小学校への円滑な接続が重要であり、引き続き、授業見学や教員同士の連携の充実を図り、幼稚園児が進学後も安心して小学校生活を送れるよう取り組んでいただきたい。（R4点検評価員会議）
・小学校や保育園との連携が進んだ点は評価できる。今後とも、私立の就学前施設との連携を図りながら着実に事業を進めていただきたい。（R5点検評価員会議）
・幼稚園等の就学前施設と小学校での合同の研修会や互いの授業視察などを通じて相互理解を深め、小学校へのスムーズな接続に向けて連携していることがうかがえる。（R6点検評価員会議）
・幼保小の「架け橋プログラム」などを通じた小学校へのスムーズな接続に向け、今後も公私の就学前施設と小学校が連携した取り組みを進めていただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え豊かな心を育むまち 施策目標15　子どもたちが健やかに育つことができるまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

5-②	学校園活性化事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教育指導課 公立保育幼稚園課

5-③	学校支援社会人等指導者活用事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教育指導課 公立保育幼稚園課

5-④	幼稚園保護者支援充実事業 （預かり保育事業）	担当課	公立保育幼稚園課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	100,521
					決算額	74,440

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

幼稚園で預かり保育を実施し、幼児の心身の健全な発達を促すとともに、幼児教育の充実と保護者の子育て支援及び就労支援の充実を図る。また、2・3歳の未就園児及び保護者が、安心して遊び、交流できる場として幼児教育教室を実施し、家庭の教育力を高めるとともに、子育て不安の軽減等を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 保護者のニーズ（申し込み）に対する幼児教育教室及び預かり保育実施率	実績値［A］ （%）	98.30	98.60	97.70
（目標値の根拠） ニーズ（申し込み）に対する実施率100%	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	98.30	98.60	97.70

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆就労支援の一環として、全ての公立幼稚園において幼稚園給食を実施している。
◆令和６年10月より、枚方幼稚園において預かり保育の定員拡充の試行実施を行った結果、35人を超える利用が見られる場合があった。令和８年度から枚方幼稚園で45人で本格実施する。
◇他の園では、引き続き現状の運用を継続しつつ、年度ごとに変化するニーズをしっかりと捉え、保護者の皆さんの負担軽減を図っていく。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・定員拡充の試行実施を行うとのことだが、引き続き保護者ニーズに沿った利用しやすい事業への拡充に努めていただきたい。（R6点検評価員会議）
・定員拡充の試行実施を行った結果や保護者ニーズを踏まえ、より充実した事業展開となるよう検討されたい。（R7点検評価員会議）

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標15　子どもたちが健やかに育つことができるまち
	市長公約	-
	実行計画	15_01子どもが安心して教育・保育を受けられる環境づくり
	関連計画	第2期枚方市子ども子育て支援事業計画

達成度	97.70%
R6からR7の達成度の推移	↘

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	－	－

基本方策５に対する点検評価員による評価

公立と私立の園所の職員が、合同研修を通じて、相互の取り組み方法の違いを理解しながら共通の目標を確認していることや、預かり保育事業においても保護者の満足度が高く、おおいに評価できる。今後とも、就学前施設と小学校の一体的な連携をさらに推進するとともに、保護者の安心につながる保育事業を継続していただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

５－①幼児教育充実事業について、すべての小学校で、近隣の就学前の教育・保育施設と公立私立交えて研修や会議の場が設けられていることは特徴的であり、小学校へのスムーズな接続に向けたモデル的な取り組みと言える。今後も、連携を進めるとともに、内容の充実に努められたい。

５－④幼稚園保護者支援充実事業（預かり保育事業）について、保護者の満足度が高まっている。保護者の負担軽減や安心にもつながるため、多様化するニーズを捉えながら、今後も事業の検討・推進に努められたい。

基本方策６　社会に開かれた学校づくりの推進

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりが必要であり、保護者や地域住民とともに学校運営を進める「社会に開かれた学校づくり」の推進が求められています。

保護者や地域住民の理解や協力を得て、各学校において特色ある教育活動を展開していくため、子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みの構築やコミュニティ・スクール等、学校運営に地域住民や保護者が参画する体制の活性化に取り組みます。①また、地域人材等も積極的に活用しながら、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組みます。

学校園の信頼の醸成や課題解決の促進のため、全国学力・学習状況調査の結果や分析内容をはじめ、「学校いじめ防止基本方針」や校内における相談体制、各学校の教育計画を各学校ブログに掲載するなど、学校の取り組みや校内での子どもの状況等の情報を積極的に公表していきます。①②また、学校と保護者との連絡体制については、共通アプリを使用した学校情報の発信や児童・生徒の出欠連絡など、デジタル技術を生かした利便性の高い連絡手段の確立に取り組みます。

教育に関わる課題が多様化・複雑化する中、より地域や保護者との協力関係を築きながら、学校の組織としてのあり方の見直しや業務の改善を進める①ことで、「チーム学校」としての機能を果たせるよう、学校園ガバナンスの確立に取り組みます。

主要事業の状況

6-①	コミュニティ・スクール推進事業	担当課	教育指導課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	3,010
					決算額	2,010

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

枚方市では保護者及び地域住民等からなる学校運営協議会を設置した学校を枚方市におけるコミュニティ・スクールと定義し、協議会の最大の目的を「校長の学校運営に対して必要な支援を行うこと」としている。
地域全体で教育を実現する仕組みの構築をめざし「学校と家庭、地域が連携・協働し、子どもたちの健やかな成長を支えていく学校づくりを進めていくこと」をねらいとした研修会等を定期的に開催し、枚方市におけるコミュニティ・スクールの実践事例の紹介、設置校の取組内容等の発信を行い、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） アンケートにおける「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」の設問に対して肯定的回答をした学校長の割合	実績値［A］ （%）	95.45	95.45	100.00
（目標値の根拠） 肯定的回答の割合100%	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	95.45	95.45	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆全44小学校において、年間3回以上の学校運営協議会を開催し、地域全体で協働した学校運営を推進した。また、各校において教員をコミュニティ・スクール担当者に指定し、学校の課題を地域と共有するとともに、コミュニティ・スクール担当者や学校管理職を対象に研修を継続して実施した。
◆文科省主催「令和７年度コミュニティ・スクール関係課協議会」に参加し、他市町村との情報交換を行った。
◇学校運営協議会委員及び地域人材を対象にした研修の開催
◇学校運営協議会が設置されているが、学校の課題を地域ぐるみで解消したり、地域住民の教育活動への参画を促したりする学校支援活動の拡充手法を検討。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・コミュニティ・スクールについては、地域全体で協働して学校運営に取り組む体制が構築されていることが伺える。今後、子どもたちの学びを更に豊かにするために、コミュニティ・スクールなどによる「地域とともにある学校づくり」を推進していく必要がある。全国的にもコミュニティ・スクールに関する取組みが推進されている中で、今後も、好事例校に着目したデータ分析も行いながら、地域の方々の力を活用した教育の充実を図っていただきたい。（R4点検評価員会議）
・今後は、学校や子どもたちへの支援にフォーカスをあてた取組みの充実を期待している。あわせて、新たな指標の検討もお願いしたい。（R5点検評価員会議）
・ブログやホームページを活用し、学校や子どもたちの様子を積極的に発信することで、地域や保護者等との協力関係構築に向け努力が払われている。今後も積極的な情報発信や地域との協働を進め、開かれた教育委員会、学校をめざして取り組んでいただきたい。（R6点検評価員会議）
・指標の100%達成をめざし、好事例の共有など保護者や地域住民との協働が進むよう、地域の実情に応じた支援を進めていただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	－		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	↗
	関連計画	－		

6-②	教育委員会広報事務	担当課	教育政策課 教育研修課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	6,294
					決算額	6,329

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

児童・生徒、保護者、市民にとって必要な情報を適切に発信するため、学校の取り組みや子どもの状況のほか、教育委員会での取り組み等について、学校ブログやホームページを用いて積極的に公表するとともに、地域や保護者等との協力関係の構築へつなげる。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） １か月あたりの平均ブログ閲覧数（全小中学校と委員会）	実績値［A］ （件）	222,811	239,171	347,339
（目標値の根拠） 令和５年度実績（月平均222,811件）を基準に毎年度５％ずつ増（アクセス数を増加させることで、開かれた学校づくりを推進するもの） R6年度 222,811件（R5年度実績）×1.05 R7年度 222,811件（R5年度実績）×1.10 R8年度 222,811件（R5年度実績）×1.15 （参考指標）前年度実績からの５％増	目標値［B］ （件）	－ （参考）201,600	233,952 （参考）233,952	245,092 （参考）251,130
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （％） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	－ （参考）110.52	102.23 （参考）102.23	141.72 （参考）138.31

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆市内外に向けて枚方の教育を紹介するＰＲリーフレット「未来を拓く　枚方の教育」を作成した。リーフレットは、学校への配付や市ホームページでの公開などを行い、教育委員会の取り組みを知ってもらうための情報発信に活用した。
◆ブログ記事の投稿数（小中学校・委員会）は、令和６年度50,959件から令和７年度34,555件に減少したものの、閲覧数は大きく増加した。
◆閲覧数の多い学校では、日々の授業の取り組みなど学校活動を積極的に発信している傾向が見られた。また、全体として、校外学習や宿泊学習、修学旅行の記事は閲覧数が特に多い傾向が見られた。
◆全体の投稿数は減少したものの、小学校で月平均54.7件、中学校で月平均23.5件の投稿を行っているなど、学校ブログが、保護者や地域にとって学校の日々の取り組みや子どもの状況を知るためのツールとして定着したことで閲覧数の増加にも繋がっており、「社会に開かれた学校づくり」の推進に一定の役割を果たしたものと考える。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・ブログ等を通じて学校の日々の様子が簡単に知ることができるようになることで、学校がより身近な存在になると考える。引き続き、子ども・地域・教職員の元気な様子が伝わる、ポジティブな情報発信の充実を期待する。（R5点検評価員会議）
・引き続きブログやホームページを活用した情報発信の充実を図る一方で、個人情報の漏洩を防止するなど、子どもたちの安全性の確保に十分留意されたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次 総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	141.72%
	市長公約	－		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	－		

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	－	－

基本方策６に対する点検評価員による評価

コミュニティ・スクールの指標で100%を達成したことは意義が大きい。また、学校ブログ等を通じた情報発信も有効に機能している。今後は、活動の質のさらなる向上と継続的な取り組みに努めていただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

６－①コミュニティ・スクール推進事業について、目標達成を成し遂げたことは意義が大きい。今後は、モデル地域の創出等により、内容の充実に努められたい。

６－②教育委員会広報事務について、有効な情報発信を続けていることは、保護者や地域住民に学校の様子がよく伝わり信頼につながることから評価できる。アクセス集中時の簡易版ブログの周知等、利用者の利便性をさらに高める工夫を期待する。

基本方策7　学びのセーフティネットの構築

近年、登下校時の交通事故や不審者等により子どもが犠牲となる事件・事故が生じており、子どもが安全で安心して学べる環境づくりが求められています。

また、インターネット等によるいじめや、学校生活や家庭環境など様々な理由による不登校等、生徒指導上の課題が深刻化する中、子どもたちが安全に安心していきいきと学校での時間を過ごせる環境づくりが必要です。

子どもが安全で安心して学べる環境づくりに向けて、オートロックや機械警備、監視カメラの設置等による学校施設内の安全確保[①]や、地域で行われている子どもの安全を見守る活動との連携のほか、専用端末を使用した子どもの位置情報履歴確認サービス等による、通学路も含めた安全対策の強化[②]、不審者情報等緊急情報のＳＮＳ発信[③]など、複合的な対応により安全で安心な体制の構築に努めます。

さらに、近年の子どもが巻き込まれた事件・事故や、大規模災害の教訓を生かし、子ども自らが危険を回避する能力を養う安全・防災教育を推進します。[③]

必要な消耗品・備品等の配備など、新型コロナウイルス感染症等への対応を契機に見直した、状況に応じた安全対策を引き続き活用するとともに、子どもたちには、自分や周囲の大切な人を守るための実践力を育てます。

いじめは重大な人権問題であるとの認識のもと、平時より関係団体・家庭・地域が連携して、いじめを起こさない、いじめを許さない環境づくりを進める[④]とともに、ＳＮＳ相談の実施などによるいじめの早期発見、早期解決に取り組みます。また、市長部局に設置されたいじめ相談窓口との連携を図り、相談体制の整備を推進し、相談者等に寄り添った解決をめざします。さらに、いじめを受けた、いじめに関わった児童・生徒に対しては、各学校の心の教室相談員やスクールカウンセラーにより心のケアを図ります。[④⑤⑥⑦⑧]

児童・生徒の不登校の兆しにも留意しながら、より一層の未然防止に努める[⑩]とともに、「つながりなしをゼロに」をキーワードに、引き続き、児童・生徒の状況に合わせた居場所の拡充[⑩]を図りながら、校内教育支援ルームや教育支援センター「ルポ」での学習支援、メタバース空間などを生かしたオンライン支援など、児童・生徒の社会的自立をめざした取り組みを進めます。[⑦⑩]

また、不登校やひきこもり、児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラー等、支援を必要とする児童・生徒に関わる様々な事象に対しては、未然防止や早期対応ができるよう、行政各分野が持つ子どもの情報の共有化を適切に進めるとともに、「子どもを守る条例」を踏まえながら、関係部署、関係機関、地域とともに総合的な取り組みを進めていきます。[⑨⑩]

主要事業の状況

7-①	小学校安全監視事業	担当課	新しい学校推進課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	40,262
					決算額	39,692

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・全小学校の正門に設置した防犯カメラ、正門のオートロック装置に連動したワイヤレスモニター子機付きインターホン及び防犯カメラの映像を録画するデジタルレコーダーを活用し、安全監視を実施する。
・来校者の多い時間帯や児童の下校時間に人的配置を行い、人の目による安全監視を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） ①防犯カメラの稼働率 ②安全監視ボランティアの従事率 （参考指標） 児童在校中の小学校への不審者の侵入件数	実績値［A］ （%）	①99.93 ②99 （参）0件	①99.96 ②89 （参）0件	①99.81 ②96 （参）0件
（目標値の根拠） ①防犯カメラの稼働率 100% ②安全監視ボランティアの従事率 100% （参考指標） 全小学校の侵入事案なし	目標値［B］ （%）	①100.00 ②100.00 （参）0件	①100.00 ②100.00 （参）0件	①100.00 ②100.00 （参）0件
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	①99.93 ②99.00 （参）100.00	①99.96 ②89.00 （参）100.00	①99.81 ②96.00 （参）100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆児童の安全・安心な学習環境の確保のために、防犯カメラやモニター機器の配置・修繕を、学校からの要望にできる限り応える形で取り組んでいる。
◆来校者の多い時間帯や児童の登下校では、防犯カメラ等の機器を活用するだけでなく、安全監視員を配置して人の目による監視を行っている。学期毎に全校の安全監視日誌を集め、不審者の侵入などがなかったかを確認することにより、令和７年度における児童在校中の小学校への不審者侵入件数は０件となっており、子どもの安全を確保する環境を維持している。
◇安全監視員について、地域の方々の協力により成り立っているが、現状、担い手不足の問題がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・事件等がなければ、達成度はずっと100%になる。例えば予定通りカメラの修繕を行えたかどうかなどを指標とすればいいのではないか。（R4点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	97.91%
	市長公約	－		
	実行計画	－	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	－		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

7-②	通学路安全対策事業	担当課	新しい学校推進課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	27,778
					決算額	26,439

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・交通量が多く、信号機のない横断歩道や踏切等の通学路の危険箇所に対して、交通専従員、交通指導員を配置し、児童の登下校の安全を図っている。
・「枚方市子ども交通安全プログラム」に基づき、道路管理者、警察等と連携した通学路の安全保持を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） ①通学路上の信号機のない横断歩道や踏切等の危険な道路で、交通専従員・交通指導員が必要と認められた箇所における交通専従員・交通指導員の配置率 ②通学路の危険箇所における安全対策（※）実施率 （※路面標示の整備や警告看板の設置等）	実績値［A］ ％	①98.00 ②100.00	①98.00 ②100.00	①95.00 ②100.00
（目標値の根拠） ①交通専従員・交通指導員の配置率（100％）＝交通専従員・交通指導員の配置人数／交通専従員・指導員配置目標人数×100 ②通学路の危険箇所における安全対策実施率（100％） ＝安全対策の実施数／学校から報告のあった危険個所数	目標値［B］ ％	①100.00 ②100.00	①100.00 ②100.00	①100.00 ②100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （％） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	①98.00 ②100.00	①98.00 ②100.00	①95.00 ②100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小学校19校（31箇所）に57人の交通専従員・指導員を配置し、登下校の安全確認を図った。
◆小学校を通じて報告のあった危険箇所の取りまとめ、路面表示やグリーンラインの施工、警察による取り締まり等、必要な対策を実施した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	97.50%
	市長公約	－		
	実行計画	16_07教育環境の充実	R6からR7の達成度の推移	↘
	関連計画	－		

7-③	小中学校安全対策事業	担当課	支援教育課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	4,622
					決算額	306

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・学校園において、危機管理マニュアルを見直し、実践的な避難訓練を実施する。
・小中学校においては、一般の安全指導の他、交通安全教室等を実施する。
・いのちの大切さを学ぶ教育を在学中に受けられるように、全小学校の高学年を対象に小学校において、胸骨圧迫とＡＥＤの取り扱いに特化した救命講習を実施する。
・小学校において防災キャンプを実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 小中学校における交通安全教室の実施回数	実績値［A］ （校）	107	107	107
（目標値の根拠） 全中学校（19回）、小学校歩行交通安全教室（44校）自転車交通安全教室（44回）	目標値［B］ （校）	107	107	107
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆各学校において、危機管理マニュアルを見直した、実践的な避難訓練を実施。
◆小学校では、１年生を対象とした交通安全教室を36校で実施、３年生を対象とした自転車交通安全教室を26校で実施。
◆中学校では、１年生を対象に警察による自転車安全教室を19校で実施。
◆全小学校高学年を対象とした胸骨圧迫とＡＥＤの取り扱いに特化した救命講習を33校で実施。
◆小学校防災キャンプを９月21日に牧野小学校で実施。令和８年１月に枚方第二小学校、３月に西牧野小学校でそれぞれ実施。
◆学校園から報告された不審者情報について、メール配信により関係機関に提供している。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・小学校高学年対象の救急救命講習は重要であるので、継続してほしい。（R6点検評価員会議）
・子どもたち自らが危険を回避する能力を養えるよう、より実践的な防災訓練の実施を検討されたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	－		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	－		

7-④	生徒指導充実事業（枚方市生徒指導体制充実事業）	担当課	教職員課 児童生徒課	事業費（千円） ※人件費のみ	予算額	59,766
					決算額	51,771

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・生徒一人ひとりの状況に応じた支援や指導をするため、生徒指導主事は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、警察等とより緊密に連携し、専門的な立場からアドバイスを受け、担任や学年に対しての指導・助言に当たる。教員は、生徒たちへの接し方を工夫し、一人ひとりに対してよりきめ細かな指導を行う。
・生徒指導体制の構築と強化する必要があると認められる学校に加配講師を配置することにより、授業が軽減された生徒指導主事が中心となり、生徒の実態を踏まえた人権教育等を充実させ、いじめや暴力行為などの問題行動に対して迅速かつ適切に指導を行う。
・各学校において策定のいじめ防止基本方針に基づき枚方市生徒指導マニュアル（いじめ防止編）を用いた教職員の研修及び児童・生徒に対するいじめアンケートの実施、枚方市生徒指導マニュアル（体罰防止編）を用いた教職員の研修等により、いじめの未然防止と体罰の根絶に努める。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 中学校全体の暴力行為の発生件数 （参考指標） 小学校全体の暴力行為の発生件数	実績値［A］ （件）	133 （参）123	80 （参）56	79 （参）83
（目標値の根拠） 暴力行為発生件数が過去２年度実績の平均値より減少 （参考指標） 暴力行為発生件数が過去２年度実績の平均値より減少	目標値［B］ （件）	63 （参）105	88 （参）119	106.5 （参）89.5
（めざすべき方向） ⇩	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	（参）82.86	109.09 （参）152.94	125.82 （参）107.26

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆加配希望があった学校からの調書等、複数の観点から精査した結果、令和7年度は中学校7校に市費負担任期付き教員を1人ずつ配置し、4校に非常勤講師を1人ずつ配置した。現在、生徒指導主事が中心となって、生徒の実態を踏まえた人権教育等を充実させたり、いじめや暴力行為などの問題行動に対して関係機関と連携し、迅速かつ的確に指導を行っている。
◇実績値においては、目標値を達成することができた。各学校がすべての児童・生徒にとって安全・安心で、魅力ある学校となるように、一人ひとりに対して丁寧に対応している結果であると考える。一方で繰り返し暴力行為を起こした児童・生徒が一定数いる。今後については、児童・生徒のアセスメントを深めていくことなどを通し、繰り返しの暴力を防ぐことと同時に、そもそも暴力行為に至ることのないように、日ごろの教育活動の中から児童・生徒の自己肯定感や自己有用感等を高める発達支持的生徒指導を推進していく。
加配講師（任期付講師）配置校
令和7年度　第一中、第三中、第四中、津田中、中宮中、杉中、桜丘中
※（非常勤講師）第二中、楠葉中、楠葉西中、山田中

これまでの点検評価員等からの主な意見

・生徒指導充実事業については、中学校での暴力行為の増加は問題と考える。コロナ禍での生徒のストレス増加も原因の1つかも知れないが、詳細な分析と対策が必要である。また、近年の傾向から、小学校での暴力行為についても、今後、注視していくべきである。（R4点検評価員会議）
・小学校の暴力件数が年々増加し、中学校の暴力件数を超える状況である。今後も子どもたちの様子を見守りながら、対応方法の分析をお願いしたい。（R5点検評価員会議）
・全国的にも暴力行為が増えている状況を踏まえて、枚方市の状況の正確な把握と原因分析を進め、事後の指導だけではなく、未然防止にも重点を置いた対応を検討いただきたい。（R6点検評価員会議）
・発達支持的生徒指導の考え方に基づくクラスづくりが、問題行動を未然に防ぐ基盤となる。今後も研修や周知などを通して指導・助言を行い、問題行動の未然防止に努めていただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子供たちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	125.82%
	市長公約	令和５年所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	－	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	－		

7-⑤	いじめ問題対策事業	担当課	児童生徒課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	32,328
					決算額	15,980

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・枚方市学校いじめ対策審議会を年10回程度、事案に応じて開催する。
・いじめ問題防止啓発資料「ストップ！いじめ」を枚方市立小中学校の児童・生徒が貸与されているタブレットに配信。（アイコンをタップするだけで開くようにしている）
・児童生徒課にいじめ対応として、弁護士、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを配置している。また、学校がいじめの未然防止、早期発見・早期対応、事後の迅速かつ適切な対応が行えるよう、指導助言する。
・人権政策課のいじめ対策グループと連携して学校のいじめ対策の強化を図るため、月１回連携会議を開催している。
・重大事態については、第三者機関として重大事態調査委員会を設置している。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） いじめの発生年度の次年度の６月末時点の認知したいじめの解消率（解消件数/認知件数） ※いじめの解消と判断するためには、少なくとも３か月間はいじめに係る行為が止まっていること、対象の児童生徒が心身の苦痛を感じていないことの２つの条件を満たす必要があるため、いじめ発生後の３か月後をもって確定。	実績値［A］ （%）	小：99.77 【3,402/3,410】 中：98.74 【939/951】	小：99.61 【3,087/3,099】 中：98.89 【896/906】	小：99.79 【2,911/2,917】 中：99.58 【959/963】
（目標値の根拠） 年度内に小･中学校において認知したいじめを100%解消する。 小学校と中学校ではいじめの認知件数に差はあるが、ここでは小･中学校合わせた解消率とする。	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	小：99.77 中：98.74	小：99.61 中：98.89	小：99.79 中：99.58

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆「枚方市学校いじめ対策審議会」については、年間10回実施した。
◆いじめ問題防止の啓発のための「ストップ！いじめ」を１人１台端末に配信した。
◆枚方市いじめ防止基本方針に基づき、疑いの段階からいじめを積極的に認知し、早期発見・早期対応に努めた。児童・生徒にいじめ理解教育を行うことで、いじめの未然防止に取り組んだ。
◆生起したいじめ事案については、学校から、毎月、いじめの態様等の報告を受けているので、重大事態につながりそうな案件については、学校に対応の確認等を行った。
◆各学校においては、学期に１回以上、児童・生徒に対するいじめアンケートと教育相談を実施し、いじめの未然防止に努めた。
◆人権政策課が開催する枚方市いじめ問題対策連絡協議会（枚方市の関係部課と大阪府子ども家庭センターや警察等外部関係機関に属する者で構成される）の定例会に参加し、教育委員会及び学校のいじめ対応の取組等を説明するなど、市長部局との積極的な連携を図った。
◆学校主体のいじめ重大事態調査において、第三者性を担保するため、利害関係のない弁護士・臨床心理士・社会福祉士などの専門家を枚方市学校調査におけるいじめ重大事態調査アドバイザーとして委嘱し、校内調査委員会に派遣した。
◇いじめ事案の重大事態化を未然に防ぐため、初期対応の段階からスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の専門家が介入し連携をとる必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・令和3年度においては、目標値である100%に近い解消率を示しており、また、事務局によると、年度末時点では、前年度比で約10%解消率が高くなったとのことである。いじめは起こらないことが第一であるが、残念ながら発生した場合には、引き続き早期解決に努めていただきたい。（R4点検評価員会議）

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針
	実行計画	16_05_いじめの未然防止・早期発見
	関連計画	-

達成度	99.69%
R6からR7の達成度の推移	↗

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

7-⑥	スクールアドバイザー派遣事業	担当課	児童生徒課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	990
					決算額	91

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

枚方市立学校園で生起した緊急の課題に対し、幼児・児童・生徒・保護者及び教職員等の心のケア、教職員等に対して助言等を行うため、専門的な知識・経験を有する者を派遣する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） スクールアドバイザーの派遣要請に対して、スクールアドバイザーを派遣後、安心できたと回答した割合（報告数／派遣報告数 × 100）	実績値［A］ （%）	100.00 (16/16)	100.00 (15/15)	100.00 (5/5)
（目標値の根拠） スクールアドバイザーの派遣要請に対して、スクールアドバイザーを派遣後、安心できたと回答した割合（報告数／派遣報告数 × 100）	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆スクールアドバイザーを派遣した回数：５回
◆派遣した学校…第四中（１回）樟葉小（２回）長尾中（２回）
◆「不安を持っていた生徒が休むことなく登校できている」「教職員が専門家のコンサルテーションにより適切に対応することができた」「被害児童の心のケアとともにアセスメントができた」「教室を巡回してもらい気になる生徒をあげてもらえ対応できた」という評価を学校から受けた。
◇緊急派遣のため、派遣終了後の長期的な見守りや支援へ繋げていくことが課題である。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち
	市長公約	－
	実行計画	－
	関連計画	－

達成度	100.00%
R6からR7の達成度の推移	達成継続（→）

7-⑦	教育相談事業	担当課	児童生徒課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	11,089
					決算額	11,286

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

●子どもの笑顔守るコール（いじめ専用ホットライン・教育安心ホットライン）
幼児・児童・生徒やその保護者等に対する電話による教育相談を行う。（平日　9:00～17:00）
●継続教育相談
幼児・児童・生徒やその保護者等に対する面談による教育相談を行う。（要予約　月～金）

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 電話、来館による年間相談延べ件数（子どもの笑顔守るコール、教育文化センター内での継続教育相談、教育文化センター内でのメンタルヘルス相談の延べ件数）（教職員課へ移管のためR6年度よりメンタルヘルス相談件数除く）	実績値［A］ （件）	1,972	1,689	1,669
（目標値の根拠） （R5年度）子どもの笑顔守るコール、継続教育相談、メンタルヘルス相談の延べ件数の前年度実績 （R6年度以降）子どもの笑顔守るコール、継続教育相談の延べ件数の前年度実績	目標値［B］ （件）	2,009	1,922	1,689
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	98.16	87.88	98.82

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆「子どもの笑顔守るコール」（「いじめ専用ホットライン」と「教育安心ホットライン」）では、幼児・児童・生徒が抱える諸問題の解決や早期発見、早期対応を図るため、心理士等の専門家が電話による教育相談を行った。
◆「いじめ専用ホットライン」は19件、「教育安心ホットライン」は181件、「継続教育相談」は1,469件の相談を受けた。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・これまで相談件数が少なかった教職員のメンタルヘルス相談件数が、積極的な周知により増えたことは評価するが、働き方改革の視点も含めて教職員の負担軽減を進め、児童生徒と関わる時間の確保に努めていただきたい。（R6点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	98.82%
	市長公約	－		
	実行計画	－	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	－		

7-⑧	「心の教室相談員」配置事業	担当課	児童生徒課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	8,385
					決算額	8,167

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

小学校における不登校や問題行動など、生徒指導上の諸課題の解決のため、児童・保護者の相談活動及び教職員に対して専門的な見地から助言を行うなど、小学校の相談体制を充実させるため「心の教室相談員」を配置する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 相談件数/全小学校の児童数×100	実績値［A］ （%）	79.23	76.19	81.36
（目標値の根拠） 相談件数/全小学校の児童数×100 60%以上を目標とする。	目標値［B］ （%）	60	60	60
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	132.05	126.98	135.60

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆心の教室相談員の配置回数：1,609回、延べ相談件数：15,129件
◆１回の活動時間は４時間。年間35回を年度初めに配当し、後期に学校から希望をとり、平均２回の追加配当を行った。
◆学校によっては年度初めや夏休み明けに回数を増やしたり、工夫して運用を行っていた。残回数については毎月確認を行っていたため、計画的な運用ができた。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	135.60%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	-		

7-⑨	福祉・教育ソーシャルワーク事業	担当課	まるっとこどもセンター	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	102,290
					決算額	76,320

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・社会福祉士または精神保健福祉士の資格を有するSSWを、19か所の拠点校に配置予定
・配置または派遣する学校の教職員とのチーム体制によるケース対応
・教職員と連携した校内ケース会議のファシリテーションや福祉的手法に基づく教職員への相談援助
・小中合同ケース会議等、小・中学校教職員が協働した小・中学校間連携の推進
・学校と関係機関等との連携のコーディネート
・スクールカウンセラーとの連携
・小中一貫教育を見据えた系統性・継続性のある生徒指導体制の構築
・拠点校以外の学校への訪問による、児童・生徒の見立てやプランニング等。
・各種研修会、連絡会等への参加
・SSWに対し、法律、福祉、心理、教育の専門的見地から指導助言を実施する、スーパーバイザー（SV）の設置
・相談支援体制拡充のためのSSWの増員

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） スクールソーシャルワーカー等の活動回数	実績値［A］ （回）	1,335	2,096	2,399
（目標値の根拠） 【R5年度】 144回（SSW1人×週3日×48週） 1152回（SSW6人×週4日×48週） 【R6年度】 288回（SSW2人×週3日×48週） 1,920回（SSW10人×週4日×48週） 【R7年度】 576回（SSW４人×週3日×48週） 1,920回（SSW10人×週4日×48週）	目標値［B］ （回）	1,296	2,208	2,496
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	103.01	94.93	96.11

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆SSW15名（内1名育児休暇）を14校に配置。
◆SSWSVを5名配置
◆SSWSVによるSSWへの研修を23回実施。
◆各SSWが担当する事例について報告・検討する事例報告会を3回実施。
◆配置している学校ごとにSSWを４つの班体制として、各班が10回程度の班会議を実施。
◆各班の班長SSW、SSWSV、SSW所管課職員による班長会議を年4回実施。
◆SSWSV、指導主事、SSW所管課職員が出席する事業進捗会議を４回実施。
◆SSW、SSWSV、拠点校管理職や担当教員、指導主事、SSW所管課職員が出席する拠点校連絡会を３回実施。
◆大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカーシステム構築検討会（３回）と大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー連絡会（５回）に出席
◇SSWが全中学校区に配置されていないため、拠点校以外の担当校からの派遣要請への対応が課題（令和７年度の拠点校以外への派遣回数は785回）。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標15　子どもたちが健やかに育つことができるまち	達成度	96.11%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	15_04子どもや若者が社会生活を円滑に営める環境づくり	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	-		

7-⑩	不登校児童・生徒支援事業	担当課	児童生徒課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	81,421
					決算額	77,594

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・不登校の兆候が見えた児童・生徒に対して、その要因や背景に応じた適切な支援を行うことにより、不登校の未然防止に努めるとともに、不登校児童・生徒に対しては、全校に配置した教育支援ルーム支援員により教育相談や学習支援など適切な支援を行う。
・枚方市教育支援ルーム指導員連絡会を開催し情報交換を図る。
・1人1台貸与されているタブレット端末をツールとして、不登校児童・生徒に対し、学習の保障のため、タブレットドリルの配信やオンライン授業を行う。また、双方向で学校と児童・生徒とコミュニケーションが取れるよう図る。
・枚方市教育支援センターと校内教育支援ルームの連携を図り、オンラインでのプログラム配信やメタバース空間を活用した支援等を行う。
●枚方市教育支援センター入室児童・生徒
学習活動・体験活動・創作活動等、社会的自立をめざした支援・指導を行う。
・訪問指導：学生指導員が家庭訪問を行い、主体的な活動への支援を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 年間30日以上の不登校児童・生徒のうち、学校内外の施設等（SC、心の教室、教育支援センター等）での相談・指導等が受けられていない児童・生徒数の割合 【計算式】学校内外の施設につながっていない不登校児童・生徒数（年間30日以上）÷年間30日以上の不登校児童・生徒数×100 令和６年度より年間90日以上→年間30日以上に変更。実績値、目標値、達成度修正 【〔〕内の数値】年間30日以上の不登校児童・生徒の数	実績値［A］ （%）	小：39.37 中：48.82 〔小：442 中：680〕	小：36.95 中：37.63 〔小：452 中：675〕	小：17.11 中：24.54 〔小：380 中：656〕
（目標値の根拠） 0% （令和9年（令和8年度実績）のつながりなしゼロ） R7年度　【小学校】22% 　　【中学校】25% R8年度　【小学校】0% 　　【中学校】0% （参考指標） 【中学校】毎年、各校1人ずつ減少する 【小学校】毎年、3分の1の学校（15校）1人ずつ減少する	目標値［B］ （%）	－ （参）小：45.59 中：54.56	－ （参）小：37.24 中：47.35	小：22 中：25
（めざすべき方向） ⇩	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	－ （参）小：113.64 中：110.52	－ （参）小：100.78 中：120.53	小：122.23 中：101.84

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆教育支援センター「ルポ」を利用している児童・生徒の活動の様子について、MicrosoftTeamsを通して登室するたびに、学級担任等との連絡を取るなどの連携強化を行った。
◆枚方市教育支援センターと校内教育支援ルームの連携として、MicrosoftTeamsを活用し、教育支援センター「ルポ」で実施しているプログラムを共有した。
◆教育支援センター「ルポ」において、MinecraftEducationを使った自宅からも参加できるオンライン支援を実施したり、御殿山図書館で職場体験等を実施した（社会とのつながりを意識）。
◆オンラインで不登校支援担当者等の交流会を実施し、校内教育支援ルームについて情報共有の機会を持った。
◆ブログを活用し、教育支援センター「ルポ」の活動を積極的に発信した。
◆不登校児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会の確保に資することを目的に、フリースクール利用料等の一部を補助する支援制度を構築した。
◇教育支援センター「ルポ」の登録者は3月末で98名。
◇令和７年度より、全小中学校で、長期欠席児童生徒支援状況について把握しているため、その一覧をもとに支援につなげていく必要がある。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・令和3年度においては、大阪府下では不登校児童数は前年度から横ばいであるが、枚方市は増加傾向にあり課題と考える。原因分析を行ったうえで、例えば地域の力を活用して、問題解決につなげる実践などを研究していただきたい。（R4点検評価員会議）
・枚方市における不登校の児童・生徒の数は、年々増加している。児童・生徒が安心して過ごすことのできる居場所づくりを推進するとともに、不登校になってしまった児童・生徒が社会に取り残されることがないよう、地域や関係機関との連携も含め、児童・生徒が常にどこかとつながっている状況をつくっていただきたい。（R5・R6点検評価員会議）
・不登校児童・生徒数が全国的に増加傾向にある中、枚方市立小・中学校における増加率や新規発生件数の鈍化はこれまでの取り組みの成果であり、評価できる。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	112.04%
	市長公約	令和５年度所信表明　令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_06不登校対策の強化	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↗）
	関連計画	－		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	―	―

基本方策７に対する点検評価員による評価

危険箇所への交通専従員の配置や防犯カメラの設置等、安全・安心な学習環境の確保に向けた取り組みが実施されている。いじめ問題については、定期的なアンケートや啓発活動を通じて未然防止に注力するとともに、発生後は関係機関との連携による適切な対応体制が構築されている。不登校児童・生徒の支援については、校内教育支援ルームや学校外の支援拠点である教育支援センター「ルポ」、メタバース空間など児童・生徒の状態に応じた選択肢を確保していることは評価できる。今後も、心身両面において子どもたちが安全で安心して学べる環境づくりを推進していただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

７－④生徒指導充実事業（枚方市生徒指導体制充実事業）について、人的措置の成果が徐々に表れていると考えられる。今後も、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携し、問題行動の防止に努められたい。

７－⑥スクールアドバイザー派遣事業について、緊急の課題が減少しているのは良い傾向である。未然防止が進んでいる成果と考えるが 、突発的な事案に対して柔軟に派遣できる体制を維持されたい。

７－⑩不登校児童・生徒支援事業について、学校内外の施設とつながっていない児童・生徒が減少したことは評価できる。校内支援教育ルームの充実やメタバース空間を活用した不登校支援等、社会的つながりの選択肢を増やす取り組みの充実を期待する。

基本方策８　学びを支える教育環境の充実

少子化の進行による児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化が進む中で、学校施設の更新や教育の情報化の推進等、より安全で充実した教育環境が求められています。また、教職員の多忙化が課題となる中で、教職員が授業や子どもたちと向き合う時間を確保するための取り組みが必要です。

学校施設のバリアフリー化については、「学校施設のエレベーター設置等に関する方針」に基づき、各校へのエレベーター整備などを進めます。①また、令和６年度末に策定する「枚方市学校整備計画（第２期実施計画）」に基づき、学校施設の長寿命化の推進やトータルコストの縮減を図るため、計画的な保全改修に取り組むとともに、施設の省エネルギー化を推進するため、教室等の空調更新に加えて、照明設備のＬＥＤ化によるＺＥＢ化に取り組むなど、良好な学習環境の整備を進めます。①

空調設備については、新たに学校体育館に整備した空調設備の効率的な維持管理を行うとともに、教室等の空調設備の更新等に向けて、より効果的・効率的な維持管理・更新に取り組みます。②

学校規模等適正化に関しては、公共施設全体の適正配置のあり方を示す公共施設マネジメント推進計画の改訂等と整合を図りながら検討を行います。さらに、現状の学校施設の有効活用についても検討を行います。③引き続き、ＩＣＴを効果的に活用したわかりやすく深まる授業や、個に応じた家庭学習の充実を実現するため、１人１台端末や周辺機器等の整備・更新に取り組みます。④教育委員会と学校とが、今まで以上に一体となって学校運営を進めていくため、ＩＣＴ等を活用したより効率的な情報共有や連絡体制の確立をめざします。

また、教職員が子どもと向き合い、指導に専念できる時間をより多く確保するため、ＩＣＴを活用し情報の一元管理や通知表や指導要録等の事務処理を軽減するとともに、今後もより効果的・効率的な学校運営に向けた業務の見直しや、教職員の健康保持等、勤務環境の整備に取り組みます。また、個人情報等を含むデータをサーバにより管理し、枚方市立学校情報セキュリティポリシーに基づいた運用を徹底することで、データの機密性、完全性、可用性を担保し、学校内の情報セキュリティのさらなる向上を図ります。⑤

衛生面に配慮した安全で安心な給食を安定的に提供する⑥ため、老朽化が進む小学校給食調理場の計画的な整備に向けた検討を進めます。

主要事業の状況

8-①	学校整備・保全事業	担当課	施設計画課・施設整備課・施設管理課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	2,129,901 （内R6から繰越1,576,811）
					決算額	1,599,277 （内R6から繰越1,278,195）

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・「枚方市学校整備計画」に基づき、学校施設の総合的かつ計画的な整備や保全を行う。
・「学校施設のエレベーター整備等に関する方針」に基づき、5校の実施設計と6校の工事を進める。
・直営作業による小中学校のグラウンド改修を行う。
・「枚方市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づき、学校施設のZEB化の達成に向け、CO2削減効果の高い照明設備のLED化を行う。

※学校トイレのドライ化、洋式トイレへの改修、バリアフリートイレの整備は令和５年度に完了

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 枚方市学校整備計画に基づき全小中学校の校舎及び体育館の照明器具をLED照明機器に更新した割合	実績値［A］ （%）	61.6	64.1	68.8
（目標値の根拠） 枚方市学校整備計画に基づき全小中学校の校舎及び体育館の照明器具をLED照明機器に更新する割合	目標値［B］ （%）	61.6	64.1	68.8
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆「枚方市学校整備計画」に基づいた保全工事等30件（エレベーター設置、LED化を含む）の内、27件の工事を完了している。
◆エレベーター設置については「学校施設のエレベーター整備等に関する方針」に基づいた６校の設置工事（禁野小学校新校舎を除く）の内、３校の工事を完了している。
◆LED化については計画通り４校で実施した。
◆直営作業によるグラウンド改修を小学校3校、中学校4校で実施した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・学校トイレのドライ化と洋式化、及び多目的バリアフリートイレの整備を計画的に推進している。（R4点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_07教育環境の充実	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	枚方市学校整備計画、枚方市地球温暖化対策実行計画		

8-②	学校空調設備整備・維持管理事業	担当課	施設計画課 施設整備課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	1,559,265 （内R6から繰越1,285,104）
					決算額	1,044,142 （内R6から繰越901,043）

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・小中学校の教室等の空調設備の点検・清掃・修理等の維持管理を実施する。
・小中学校体育館63棟の点検・清掃・修理等の維持管理を実施する。
・令和7年度から令和9年度に教室等を対象に約1800室の空調設備を更新する。
・教室等の空調設備更新において令和7年度に更新対象となる空調設備の維持管理については、更新する事業者にて実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 枚方市立小中学校教室等空調設備更新DBO事業による空調設備更新室数に対しての実施室数の割合 【参考指標】 空調設備の維持管理室数に対しての実施室数	実績値［A］ ％	－ （参）2,504室	－ （参）2,517室	15.0
（目標値の根拠） 枚方市立小中学校教室等空調設備更新DBO事業による空調設備更新室数に対しての実施室数の割合 【参考指標】 小中学校における空調設備の維持管理室数	目標値［B］ ％	－ （参）2,504室	－ （参）2,517室	15.0
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （％） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	－ （参）100.00	－ （参）100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小中学校の教室等及び体育館の空調設備の維持管理を適切に実施している。
◆小中学校の教室等の空調設備の更新について、令和7年度は計画通り276室の空調設備を更新し、引渡し後、維持管理を実施している。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・学校体育館を含めた空調整備が計画的に進められている。ともに、時代の変化に沿った先進的な取り組みであると評価できる。（R4点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	100.00%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_07教育環境の充実	R6からR7の達成度の推移	－
	関連計画	枚方市学校整備計画		

8-③	学校規模等適正化事業	担当課	新しい学校推進課 施設整備課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	2,784,854 （内R6から繰越238,054）
					決算額	2,547,725 （内R6から繰越234,146）

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・「枚方市学校規模等適正化基本方針（改定版）」に基づき、小規模校及び大規模校並びに過密校について、学校統合や通学区域の変更、増築等により、学校規模等の適正化に向けた取り組みを進める。
なお、取り組みにあたっては、令和９年度に改訂を予定している「公共施設マネジメント推進計画」で示される将来ビジョンを踏まえた公共施設の適正配置の方針と整合を図りながら検討を進めることとしており、令和７年度については、将来の児童生徒数の減少に伴い、学校統合も困難な学校が出てくることを見据えた取り組みとして、小規模校における余裕教室を利用する等、施設の複合化による有効活用の手法について検証を進める。
・「枚方市学校規模等適正化基本方針【改訂版】に基づき、旧高陵小学校と旧中宮北小学校を統合して誕生した禁野小学校の新校舎整備事業については、「設計施工一括デザインビルド（ＤＢ）方式」で実施しており、令和７年度は、令和６年７月から着工している建設工事を令和８年７月の完成に向けて着実に進める。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 教室の転用や間仕切りによる教室の区分け等、過密校等における必要な教室数の確保に向けて取り組んだ学校数	実績値［A］ （校）	1	2	1
（目標値の根拠） 教室の転用や間仕切りによる教室の区分け等、過密校等における必要な教室数の確保に向けて取り組んだ学校数	目標値［B］ （校）	1	1	1
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	200.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆小規模校における余裕教室の有効活用については、令和6年度に検討した取り組み案（空き教室を活用した不登校児童等の居場所づくり等）を学校に提示するなど、協議・調整を行った。
◆禁野小学校の新校舎整備事業については、「設計施工一括デザインビルド（DB）方式」で実施しており、令和６年７月より着手している新校舎建設工事は、令和８年７月に完了予定。
◇令和７年４月に事業者より労務単価や資材の高騰による２回目のインフレスライドの請求があり令和７年１２月に変更契約を締結した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・これまで、学校統合のほか大規模校での校舎の増築や過密校対策として通学区域変更など、学校規模適正化の取り組みを適宜行ってこられたことは評価できる。今後は長期的な人口減少も見据え、学校のあり方だけではなく、地域づくりやまちづくりといった視点をもった公共施設全体の運用と整合を図りながら検討するとのことであり、このことが将来にわたる良好な教育環境の維持につながることを期待する。（R6点検評価員会議）

関連計画				
	第5次 総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	達成度	100.00%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	16_07教育環境の充実	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↘）
	関連計画	-		

8-④	学校ICT機器等整備業務【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教育研修課

8-⑤	校務の情報化推進事業	担当課	教育研修課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	22,962
					決算額	22,962

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・現行の校務支援システム（平成27年度導入・令和３年度更新）では、学校における児童・生徒の情報を自前のサーバで一元管理し、成績・保健管理等に活用することで、教職員の事務を軽減し、児童・生徒と向き合う時間の確保と、よりきめ細かな指導による教育の質の向上を図っている。また、個人情報等を含むデータをサーバにより一元管理することで個人情報の持ち出しを防ぎ、学校内の情報セキュリティの向上を図る。
・一方で、国が提唱する次世代の校務DXに伴い学習系・校務系ネットワークの統合と校務支援システムのクラウド化を進める必要があり、これらシステム更新に向けた計画を作成するとともに関係課でクラウド版校務支援システムの調査研究を進める。
・全中学校に採点支援システムを導入して、教職員の採点業務（採点、集計、転記）の効率化を図るとともに、分析機能を活用して生徒の弱点を把握し、個別最適な学びの充実につなげる。また、採点から成績処理の負担を軽減する。
・校務での生成ＡＩの活用について実証及び検討を進め市内小中学校間で好事例を情報共有し事務の効率化を図り校務の負担軽減につなげる。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 教員アンケートにおける「校務支援システム・採点支援システムの活用により、児童生徒に向き合う時間が増えた」に対して肯定的回答の割合 （参考指標） 教員アンケートにおける「出席簿の学期ごとと年度末集計事務に要した合計時間」の１日の平均時間（分）	実績値［A］ （%）	― （参）53.4分	― （参）56.4分	60.67 （参）48.2分
（目標値の根拠） 教員アンケートにおける「校務支援システム・採点支援システムの活用により、児童生徒に向き合う時間が増えた」に対して肯定的回答の割合80% （参考指標） 90分以内（学校の放課後時間内（15:30～17:00））に完了することをめざすもの	目標値［B］ （%）	― （参）90分	― （参）90分	80 （参）90分
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	― （参）140.67	― （参）137.33	75.84 （参）146.44

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆校務での生成ＡＩ活用集を小中学校へ電子媒体にて共有した。
◇校務支援システムの更新
現行システムは令和７年度末に契約終了するため、次期システムは、導入を１年後ろに伸ばし、令和10年度稼働をめざしパブリッククラウド上で運用できるシステムを前提とし、国の動向を注視し共同調達の仕組みを活用して円滑に更新できるよう、現行システムのリース延長やデータ移行を含め計画していく必要がある。
◇校務ＤＸの推進
国が示す「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリスト」に基づき、教職員の働きやすさと教育活動の更なる高度化をめざし、業務のデジタル化と校務ＤＸ環境の整備を行っていく。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・校務において生成AI活用を実証し、その成果を共有するなどの先進的な取り組みは他市の模範となる。今後も継続して取り組みを進められたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16　子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	75.84%
	市長公約	令和５年度所信表明		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	―
	関連計画	-		

8-⑥	小学校給食充実事業【再掲】※基本方策２に記載	担当課	おいしい給食課

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
⑤校務の情報化推進事業	校務支援システムについて、導入後長い期間が過ぎており、この環境が当たり前と捉えている教職員も多くいるため。	新たなシステムの環境構築も視野に入れていくとともに、指標の目標を見直していく。

基本方策８に対する点検評価員による評価

エレベーターの設置や空調設備の更新等、学校施設の維持管理・整備が計画的に進められている。また、生成AIの活用等による業務の効率化が推進されたことで、教職員の負担が軽減し、子どもたちと向き合う時間の確保につながるなど、教育環境の充実が図られている。

各事業についての意見は、次のとおりである。

８－③学校規模等適正化事業について、平成29年に改訂された「枚方市学校規模等適正化基本方針」は10年が経過し、学校を取り巻く環境も大きく変化しているため、今後の人口推計や社会情勢等を確認しながら事業を推進していただきたい。

８－⑤校務の情報化推進事業について、生成AIを活用して様々な業務の効率化に取り組んでいることは評価できる。今後も生成AI活用の好事例を学校間で共有し、教職員の負担軽減ときめ細やかな指導につながる校務DXをさらに推進していただきたい。

基本方策９　生涯学習の推進と図書館の充実

社会が激しく変化し、複雑になる中で、生涯にわたり自らに必要な知識や能力を身に付けることが必要となっています。そうしたことを支えるためには、子育て、健康・医療・介護、職業、情報社会、安全・防災、環境問題等、様々な課題に関する学びと、その成果を生かす機会が生涯にわたって提供されることが必要です。

それぞれの分野における様々な行政部門・団体との連携を強めながら、特に基礎的な知識・技術の学習機会の提供に取り組みます。①②
図書館においては、令和３年に策定した「枚方市立図書館第４次グランドビジョン」に基づき、知の源泉となる図書館資料を収集・保存し、市民ニーズに応じた資料や情報を提供する基本的な役割を果たすことで、誰もが読書に親しむことができる環境を整え、市民の学びを支えます。③④⑤⑥⑦⑧また、いつでもどこでも図書に親しむことができる市民サービスとして開始した「電子図書館」についても、さらなる利用促進に努めます。⑨
また、ＩＣタグシステムの導入拡大や予約図書受取ロッカーの配置により、待たない貸出手続きや24時間いつでも借りられる環境を整え、誰もが利用しやすい快適な図書館サービスの提供を広げていきます。⑦
読書が果たす重要な役割を踏まえ、学校図書館への支援・連携強化、学校司書の育成・支援など、学校教育と連携を図ることにより、生涯にわたる読書習慣を養えるよう子どもの読書活動を推進します。⑩

主要事業の状況

9-①	社会教育活動推進事業	担当課	教育政策課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	6,590
					決算額	5,363

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

「人生100年時代」においては、生涯自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の問題解決のための活動につなげていくことの必要性が高まっていく中、社会教育を推進するため、以下の事業を行う。
社会教育基礎講座…人が地域で生活していくために必要な基礎的な知識や技術の習得の機会を提供する。
家庭教育支援事業…家庭教育を支援する各種事業を行う。参加者同士の話し合いを通じて、自らの子育てを振り返る機会を提供し、子育てに関する“気づき”を促す講座や、親と子が協力し、一つのことを成し遂げたり、何かを作ったりする機会を提供することで、親子のコミュニケーションを促進する講座等を開催する。
社会教育（人権）講座等…お互いの違いを理解し、尊重することの大切さについて考える機会の提供などを行う講座や、日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象に、日本語の学習の場を提供することを目的とした、「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」及び朝鮮語の学習を通じて本市ともゆかりのある朝鮮半島の文化、歴史等を学ぶ朝鮮語教室を実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 社会教育活動推進事業への延べ参加者数	実績値［A］ （人）	3,686	3,543	4,129
（目標値の根拠） 「よみかき」については登録者数×13回（目標通室回数）、「朝鮮語教室」については募集人数の80％×年間実施回数の80%、その他の事業については募集人数の80%	目標値［B］ （人）	3,734	4,075	4,189
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	98.71	86.94	98.57

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆社会教育基礎講座は「老いに備える」をテーマとして、「将来のための相続準備～家族のために考えよう～」（35人参加）、「エンディングノートの書き方講座～最期の想いを１冊に～」（35人参加）、オンデマンド講座「加齢にともなう誤嚥のリスク～食事場面のポイントや対策について～」（127回再生）を開催した。また、家庭教育支援事業として、「親子で作ろう！ペットボトル地震計」（14組30人参加）、「春休み　親子で楽しむ木工リサイクル～木片を使って、世界にひとつのオブジェ作り～」（10組20人参加）、「思春期を科学する」（41人参加）、「子育て応援！親学び講座（出前講座）」（１回目：７人参加、２回目：３人参加）、「子ども乗せ自転車を使うパパママ必見講座＆子育て座談会」（４人参加）、PTA協議会との共催で「教育講演会　ピンヒールで車椅子を押す ～わたしらしく、自分らしく～」（124人参加）、「子どもの悩みに寄り添う～親と子のかかわりを考える～」（23人参加）を開催した。また、社会教育人権講座として、「高齢者虐待を防ぐ～わたしたちができることを考える」（18人参加）を開催した。また、枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」は、延べ2,511人の学習者が参加した。また、朝鮮語教室は、延べ1,151人の学習者が参加した。
◇市民にニーズのある事業のテーマ設定や、開催日時・開催手法の設定、周知方法について課題があるため、これまでの講座アンケート結果や、社会教育委員からのご意見も参照しながら、目標の達成に向け改善を図る。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・市民のニーズを踏まえた講座を実施されており、参加者数が増加していることは評価できる。今後は、より多くの市民が講座に参加できるよう、オンライン講座の開催についても検討いただきたい。（R5点検評価員会議）
・大学が行う社会貢献活動とも連携を図るなど、今後も魅力ある講座の検討や講師の確保を期待したい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	達成度	98.57%
	市長公約	-		
	実行計画	-	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	-		

9-②	生涯学習事業	担当課	文化生涯学習課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	25,170
					決算額	20,182

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

●生涯学習事業の推進
他部署との連携事業等、各生涯学習市民センターを実施場所として各種事業を実施。また、生涯学習市民センターまつりなど実行委員会形式により、市民主体の事業を実施している。
●生涯学習施設の運営
生涯学習市民センター（9施設）の利用運営を行い、生涯学習事業、活動委員会事業などの事業を実施している。
●枚方市生涯学習推進審議会運営事務
市民や専門家の幅広い意見を聴きながら、生涯学習による市民との協働のまちづくりを進めるために、平成18年4月に枚方市生涯学習推進審議会を設置。現在、審議会は学識経験者、関係市民団体等、計10人の委員で構成している。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 生涯学習施策推進アンケートによる満足度の割合 （「満足」「概ね満足」「普通」と回答した設問数／総設問数） ※総設問数＝アンケート回答者数×設問数	実績値［A］ （%）	82.66 （3,824/4,626）	87.62 （5,126/5,850）	88.74 （7,188/8,100）
（目標値の根拠） 総設問数に対して「満足」「概ね満足」「普通」と回答した設問数が80%	目標値［B］ （%）	80.00	80.00	80.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	103.33	109.53	110.93

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆生涯学習市民センター等で、講演会、講習会、映画会、コンサートなどをひらき、市民が自分からすすんで学習できる機会を提供するとともに、地域の特色を活かした生涯学習事業や交流の促進を行うため、市民と連携した活動委員会による事業を開催している。
◆人形劇関連事業や市民主体の実行委員会形式で生涯学習市民センター祭を開催するなど、学んだことを活用できる場の提供をおこなっている。
◆市民や専門家の幅広い意見を聴きながら、生涯学習による市民との協働のまちづくりを進めるために、枚方市生涯学習推進審議会を令和8年1月に開催。
◆市民・店・会社・大学・地域のつながりを支える取り組みとして、「職員による出前講座」、市内5大学との連携・協力による「ひらかた市民大学」「子ども大学探検隊」などを実施している。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・満足度が半数にも満たない状況を踏まえ、現状に甘んじることなく好事例を参考とするなど、市民ニーズ・満足度の向上を意識した事業展開に努められたい。（R6点検評価員会議）
・大学が行う社会貢献活動とも連携を図るなど、今後も魅力ある講座の検討や講師の確保を期待したい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	110.93%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	17_01生涯学習の推進	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	－		

9-③	図書館資料購入事務	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	84,874
					決算額	84,874

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

基本的な蔵書構成を維持しながら市民の多様なニーズに応えるため、雑誌・読み物から専門書に至るまで、幅広くバランスを意識し、あらゆる分野にわたり、正確で新しい情報を提供できるよう計画的に資料を購入する。また、貸出頻度の高い児童書のロングセラーや、情報が古く更新が必要な図書の買い替えを積極的に進め、蔵書のリフレッシュを昨年度に引き続き行う。なお、選書に際しては、より効果的な利用につながるよう、ＩＣタグシステム導入後の蔵書分類ごとの利用状況をエビデンスにするなど留意する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 図書館の蔵書構成に関する利用者満足度	実績値［A］ （%）	84.30	85.90	84.10
（目標値の根拠） 図書館の蔵書構成に関する利用者満足度90%	目標値［B］ （%）	90.00	90.00	90.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	93.67	95.44	93.44

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆選書に際しては、蔵書計画に定める収集方針を踏まえ、蔵書バランスを重視した。また、利用が多く劣化した本や情報の古い分野の蔵書の一部を更新した。
◆図書館の蔵書となる図書を児童書12,980冊、一般書25,411冊、合計38,391冊購入した。
◇利用統計を参考にした選書。
◆児童向けの学習漫画については、様々なテーマで入門的な役割を果たすものや、漫画表現を行うことにより、テーマの理解が効果的に増進されるもの、同分野の最新情報が類書では得られなくなっているもの（歴史漫画等）については現物確認するなど慎重に検討した上で収集した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	93.44%
	市長公約	令和７年度市政運営方針		
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン		

9-④	図書館等巡回事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	15,466
					決算額	13,210

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

各図書館・分室が所蔵している図書館資料を、市民が希望する図書館・分室で貸出・返却が出来るよう中央図書館を起点に各図書館・分室を巡回する図書館資料の運搬を業務委託により実施する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 分館・分室の巡回日数	実績値［A］ （件）	501	499	448
（目標値の根拠） 年度当初に予定していた年間巡回日数	目標値［B］ （件）	501	499	448
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆図書館業務に必要不可欠な図書館資料の配送のため、適切な巡回業務に努めた。
◆中央図書館と各分館・分室間を巡回する図書館資料の運搬を委託により計画的に実施した。
◆物量の増加が見込まれる市駅前図書館への巡回回数を多めにするなど巡回ルートを設定し、より迅速に予約図書を利用者へ渡すことができるよう対応を図った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	-		
	実行計画	-	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	-		

9-⑤	中央図書館管理運営事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	73,284
					決算額	68,581

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・図書館政策の企画・立案・周知等を行う。
・幅広い分野と難易度の図書館資料を所蔵し、各図書館、分室、自動車文庫における貸出を支援するとともに、他自治体の公共図書館との相互貸借、参考業務、児童サービスなどの拠点館として各種図書館サービスを行う。
・ＩＣタグシステム導入を機に、読書相談業務や蔵書管理業務などの充実を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 中央図書館の利用者満足度 【参考指標】中央図書館の貸出冊数	実績値［A］ (%)	92.13 （参）722,554冊	93.67 （参）703,765冊	90.64 （参）766,364冊
（目標値の根拠） 中央図書館の利用者満足度90% 【参考指標】直近３か年の平均値	目標値［B］ (%)	90 （参）501,390冊	90 （参）742,083冊	90 （参）721,806冊
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ (%) ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	102.37 （参）144.11	104.08 （参）94.84	100.71 （参）106.17

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆開館日数：294日
　貸出冊数（個人）：766,364冊
　予約受付件数（個人）：59,788件
　延べ利用者数：283,261人
◆引き続き市内図書館ネットワークの拠点として図書館サービスを提供した。
◆積極的にレファレンス（読書相談）や様々なイベントなど、利用者の増加が見込めるような取り組みを実施した。「”大人のための”図書館お仕事体験」「電子図書館利用体験」の新たなイベントや、引き続きバックヤードツアー等のイベントを実施した。
◆ICタグシステムを導入したことによる貸出の自動化により、創出された時間を活用し、魅力的な棚づくり、レファレンス、読書相談等の専門的なサービスのさらなる充実を図っていくなか、除籍を21,474点行い、古い資料を書庫入れするなど棚づくりを行った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち
	市長公約	－
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン

達成度	100.71%
R6からR7の達成度の推移	達成継続（↘）

9-⑥	図書館分館管理運営事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	442,542
					決算額	436,034

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

図書館サービスにおける地域の拠点として、中央図書館および図書館分室と連携しながら、図書館資料の貸出やレファレンスサービス等の図書館サービスを提供することを目的として、図書館資料の貸出や予約の受付、レファレンスサービス、各種行事等を行う。
令和６年９月には新しい分館としてＩＣタグシステム導入の市駅前図書館を開館した。令和７年度は市駅前図書館以外の７分館にもＩＣタグシステムを導入していく。中央図書館は日常的に分館との連携を図るとともに、モニタリングなどを通じて、指定管理者による分館の管理・運営の充実を推進する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 図書館分館利用者の満足度 【参考指標】全分館の貸出冊数	実績値［A］ （%）	89.24 （参）2,635,567冊	90.59 （参）2,972,430冊	88.64 （参）3,286,453冊
（目標値の根拠） 図書館分館利用者の満足度90% 【参考指標】直近３か年の平均値	目標値［B］ （%）	90 （参）2,301,248冊	90 （参）2,598,502冊	90 （参）2,727,105冊
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	99.16 （参）114.53	100.66 （参）114.39	98.49 （参）120.51

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆開館日数2,734日／8館（1館平均約341.75日）
　貸出冊数（個人）：3,286,453冊／8館
　予約受付件数（個人）：754,179件／8館
　延べ利用者数：1,446,451人／8館
◆令和７年度は市駅前図書館以外の７分館にもＩＣタグシステムを導入した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・来年度にオープンする市駅前図書館については、指定管理者が運営される。蔵書規模は大きくないが、市駅前ということで、市民の皆さんはそのオープンをたいへん楽しみにしておられる。司書の皆さんが専門的なノウハウを活かして選定した魅力的な蔵書に加え、ＩＣタグシステムや予約図書受取ロッカーをはじめとした、これまで本市では提供してこなかった新たなサービスの提供と、指定管理者による専門的なサービスにより、枚方市の顔である枚方市駅直結の図書館にふさわしい、魅力ある図書館にしていただきたいと要望する。（議会）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	98.49%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン		

9-⑦	図書館オンラインシステム運営事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	163,520
					決算額	159,625

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

図書館コンピュータシステムにより中央図書館、分館、分室をオンラインで結び、蔵書管理、貸出返却業務、インターネットによる蔵書検索サービスや予約サービス等を行う。
令和６年度に中央図書館と市駅前図書館にＩＣタグシステム・自動貸出機・予約図書受取コーナー（中央図書館のみ）を導入し「待たない」貸出手続きを導入するとともに枚方市駅構内に予約図書受取ロッカーを設置した。
令和７年度には、市駅前図書館以外の７分館にＩＣタグシステムを導入し、自動貸出を行うことに加え、予約本をセルフで取り出せる「予約図書受取コーナー」を設置する。
また、読書履歴記録用冊子「ひらかたブックダイアリー」をすべての分室にも導入を行い、インターネット上で利用者が自らの読書履歴を蓄積していくことが可能な「Ｍｙ本棚」とあわせて、読書意欲の喚起につながるよう取組む。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 予約受付件数 （WEB予約を含めた予約受付件数）	実績値［A］ （件）	828,471	849,863	910,125
（目標値の根拠） 直近３か年の平均値	目標値［B］ （件）	828,562	839,208	832,854
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	99.99	101.27	109.28

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆分館、分室をオンラインで結び、蔵書管理、貸出返却業務、インターネットによる蔵書検索サービスや予約サービス等を継続して行っている。
◆ICタグシステムの導入により、すべての分館に予約図書受取コーナーの設置を行い、図書館の職員を介さずに利用者の操作のみで完結する自動貸出機を導入することで「待たない」貸出手続きを実現し、利用者の利便性の向上を図った。
◆利用者が自身の読書履歴を記帳できる通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」の配布・販売、及び印字機を分室に設置し、10月から運用を開始した。これをもって全館への設置が完了した。
◆学校と連携して、児童生徒の市立図書館の利用促進を図った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・市立図書館へのICタグシステムは、効率化につながるが、貸出データなどを蔵書購入の際にも活用していくのか、蔵書計画との整合性は？（議会）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	109.28%
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針		
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	－		

9-⑧	障害者利用促進事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	958
					決算額	701

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・障害のある利用者等の読書環境を整備し、障害者等の利用促進を図ることを目的として、録音・点字資料の貸し出し、製作、視覚障害者への対面読書、聴覚障害者向けおはなし会及び手話・字幕付映像資料の制作等を行うとともに音訳協力者等の養成を行う。
・「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）に基づき、視覚障害者等に対して、拡大読書機、ルーペ等の拡大補助具、点字ディスプレイ、デイジープレイヤー等の機器について、個々の状態に応じた活用に留意し、支援を行うとともに、様々な読書手段を紹介する。
・読み上げ機能を備えた電子図書館システムを導入することにより、視覚障害者や学習障害者等の活字での読書が困難な方へのサービスを行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 障害のある利用者登録数	実績値［A］ （人）	123	121	122
（目標値の根拠） 前年度以上	目標値［B］ （人）	125	123	121
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	98.40	98.37	100.83

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆視覚障害者等へのサービスとして対面読書を65回実施した。
◆聴覚障害者へのサービスとして、手話で楽しむおはなし会を4回実施（参加延べ人数75人）した。
◆デフリンピック開催を前にデフリンピック競技者による読書バリアフリー講演会を2回実施（参加62人）した。
◆音訳協力者に対しては外部講師を招いての音訳講習を4回実施(参加延べ人数44人）した。
◇利用者の高齢化による利用の休止が増え、点字・録音図書の貸出は減少傾向にある。このため読書相談や資料案内などを通じて読書要求の拡大に務めている。また、加齢に伴い通常の活字による読書が困難になった高齢者の貸出に占める割合は、新規登録を含めて増える傾向にあり、これらの状況をふまえて引き続きサービスの周知に努める。
◇諸サービスについて、利用者の拡大と、録音資料の製作や対面読書を担う音訳協力者の養成が課題である。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	達成度	100.83%
	市長公約	-		
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実	R6からR7の達成度の推移	↗
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン		

9-⑨	電子図書館運営事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	1,056
					決算額	1,056

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

ＩＣＴの進展及びコロナ禍における新しい生活様式にも対応した図書館サービスとして、令和３年７月より「ひらかた電子図書館」を導入している。ウェブ上で電子書籍が読めるサービスで、文字の大きさの変更が可能であり、音声読み上げ機能付きのものもあり、紙の本が読みづらい人でも読書が楽しめる。また、複数人数が同時に閲覧可能な児童書の「読み放題パック」を所蔵しており、今後、電子図書館の特性を活かした蔵書も収書していく。なお、「読み放題パック」の購入については、子どもに本を届ける基金の活用を予定している。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） ひらかた電子図書館に関する利用者満足度（窓口アンケート）	実績値［A］ （%）	78.30	82.50	81.90
（目標値の根拠） ひらかた電子図書館に関する利用者満足度80%	目標値［B］ （%）	80.00	80.00	80.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	97.88	103.13	102.38

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆電子図書館利用統計
　ログイン数：85,461回　　閲覧回数：205,918回
　貸出冊数：30,503冊　　予約件数：10,422件
◇電子図書の蔵書冊数が少ない点と電子図書館の認知度を高める点が課題である。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・電子書籍貸出冊数が、さまざまな工夫により、目標値と比べて実績値がかなり大きくなったことは評価できる。更なる貸出冊数の増加に向けた取組みを進めていただきたい。（R4点検評価員会議）
・タブレット端末による「ひらかた電子図書館」利用が可能となり、さらに「読み放題パック」を導入して以降に、小学生の電子図書館利用が多くなったということがわかった。今後も、安定的に財源を確保しながら、電子図書館全体はもちろん、特に読み放題パック等児童書を充実させていただき、子どもの利用をさらに拡大するよう要望する。（議会）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	達成度	102.38%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	17_02図書館運営・機能の充実	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↘）
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン		

※指標が複数ある場合、点検評価に係る達成度は、上記の達成度の平均値を用いる。

9-⑩	学校図書館支援事業	担当課	中央図書館	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	14,119
					決算額	14,072

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・学校図書館の充実と市立図書館蔵書の効果的な活用を図ることで、子どもの読書活動を推進し、自ら学び考える力の育成を支援することを目的に、教育指導課の事業計画「読書活動推進事業」と連携し、中央図書館から配置した学校司書への人的・技術的支援及び学校図書館システムの管理・技術的支援を行うとともに、学校図書館の整備及び読書活動の支援や調べ学習などの授業支援を行う。
・子どもの読書習慣の確立や情報活用力の育成をめざし、市立小学校に配置する学校司書と連携しながら、学校図書館機能の向上及び充実を図る。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 市内小中学校への団体貸出件数	実績値［A］ （件）	558	544	655
（目標値の根拠） 直近３か年の平均値	目標値［B］ （件）	454	531	548
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	122.90	102.45	119.53

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和７年度は全小学校44校に配置した学校司書25人（うち、２校兼務19人、１校専任６人）と連携しながら、学校図書館整備の支援や学校図書館システムの管理・技術的支援、授業で活用するための資料提供等を行っている。
◆令和７年度の学校図書館における児童一人当たりの貸出冊数は、令和６年度と比較すると1.27冊増加している。
◆令和６年度に引き続き、市立小学１年生をはじめ令和７年度新規の児童生徒タブレットの端末用アカウントを、ひらかた電子図書館に登録した。また７月より、学校での利用に適した複数人で同時に閲覧できる「児童書読み放題パック」を562タイトルから685タイトルに増やした。
◆毎月１回、学校司書連絡会を開催し、学校図書館機能の充実及び児童の読書活動推進のための情報交流や研修を行い、学校司書の知識・技術の向上を図った。
◇小学校に配置した学校司書と連携しながら、中学校での学校図書館システムの管理・技術的支援を中学校の司書教諭及び図書担当教員に対して行う。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・子どもたちの１人１台端末への電子図書館のリンクアイコンの追加などは、学校と図書館が連携した子どもたちの読書活動推進の取り組みとして、他市にも誇れるものと考える。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標16 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	**達成度**	119.53%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	16_02 子どもの確かな学力の定着を図る	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↗）
	関連計画	枚方市立図書館第4次グランドビジョン		

9-⑪	読書活動推進事業【再掲】※基本方策1に記載	担当課	教育指導課

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
該当なし	－	－

基本方策９に対する点検評価員による評価

市民ニーズに即した講座の開催や、増加する外国人住民のための「よみかき」教室の充実、図書館サービスの効率化・迅速化につながるICタグシステムの全分館への導入拡大等、社会教育の活性化が着実に図られている。今後は、「よみかき」教室の指導スタッフの能力向上を図るとともに、ICタグシステムを導入したことによる本の貸出の自動化により創出された時間を活用し、図書館における専門的なサービスのさらなる充実を図ることにより、市民の学習機会の充実に取り組んでいただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

９－①社会教育活動推進事業について、今後も外国人住民の増加が見込まれるため、「よみかき」教室の充実が求められる。引き続き、指導スタッフの養成や人材確保に継続して取り組まれたい。

９－⑧障害者利用促進事業について、障害者の図書館利用に関して、着実に成果を上げていることは評価できる。今後も利用者の声に耳を傾け、丁寧な障害者サービスの継続を期待する。

基本方策10　文化・スポーツなどの生涯を豊かにする体験活動の充実

「人生100年時代」においては、一人ひとりの市民が多様な個性・能力を開花させ、生涯学び、活躍していくためには、豊かな文化・芸術にふれ、自然との関わりを持つことが大切です。

また、市民のふるさと意識やまちへの愛着を育むには、まちの歴史文化への理解を深めることが必要です。さらに、生涯にわたって健やかな生活を過ごすことを可能にするためには、健康な運動習慣を確立することが必要です。

こうしたことから、子どもの時から様々な体験活動や、子どもたちが安全で自由に過ごすことができる空間を提供するとともに、地域等とも連携しながら、生涯にわたって人生を豊かにする多様な学習機会を提供していくことが求められています。

社会教育と学校教育の連携を強化し、子どもたちが文化・芸術や自然の中での活動等、様々な体験ができる機会を確保します。①②また、子どもたちの夢や将来の可能性を広げるため、地域の特色や活力を生かしながら、３季休業期などに児童の参加・体験型のプログラムを提供していきます。

生涯学習市民センターや総合文化芸術センターなどを活用し、子どもたちをはじめとする市民が文化･芸術についての関心を深め、そこに喜びや楽しみを感じられるような環境整備に努めます。③

また、文化財等の適切な保存を進めるとともに、特別史跡百済寺跡等の貴重な歴史文化遺産について、多くの市民の理解と共感を得て、文化財に関する情報発信を行い、郷土愛が育まれ継承されるよう取り組みを進めます。④⑤⑥⑦

また、各種スポーツ・レクリエーション活動については、プロスポーツに触れる機会の提供や、スポーツ環境の整備に取り組むとともに、健康の維持増進を図るため、身近なところで誰もが取り組める健康スポーツの推進に取り組みます。⑧⑨

令和７年３月に策定する「児童の放課後を豊かにする行動計画」に基づき、子どもの成長に必要な要素として、自由で自主的な子どもの「時間」、安全に自由に遊べる「空間」、異年齢の集団を含む「仲間」の「３間（さんま）」を確保・充実し、遊びや豊かな体験等を通じて、家庭や学校以外の第３の児童の居場所として、全市立小学校で実施している留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアを一体とした総合型放課後事業の取り組みを一層強化します。また、小学校入学以降も保護者が安心して就労できる環境の整備を進めるため、児童と保護者のニーズを汲み取った施策についても充実を図ります。⑩⑪

主要事業の状況

10-①	文化財活用事業【再掲】※基本方策2に記載	担当課	文化財課

10-②	野外活動センター利用促進事業【再掲】※基本方策2に記載	担当課	スポーツ振興課

主要事業の状況

10-③	文化芸術事業	担当課	文化生涯学習課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	31,327
					決算額	30,808

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

総合文化芸術センターなどを活用し、文化芸術に触れるきっかけづくりとなるような魅力的な事業を数多く展開していくことで、市民の文化芸術への興味や関心を育て、文化芸術の裾野を広げることを重点施策としている。特に文化芸術の裾野を広げるための子ども対象の事業については、連携協定を締結している文化芸術団体や劇作家・演出家で芸術文化観光専門職大学学長である平田オリザ氏、枚方ゆかりの若手アーティスト、市教育委員会と連携協力して、子どもたちが感受性の豊かな時期に、等しく文化芸術を体験できる機会や、興味や関心のある子どもたちを育成する事業を総合的に行っていく。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 文化事業の参加者へのアンケートによる満足度の割合 （「満足」「概ね満足」「普通」と回答したアンケート回答者数/アンケート回答者数）	実績値［A］ （%）	91.4 (867/949)	96.6 (997/1,032)	95.3 (6,039/6,335)
（目標値の根拠） 総設問数に対して「満足」「概ね満足」「普通」と回答したアンケート回答者数が80%	目標値［B］ （%）	80.00	80.00	80.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	114.25	120.75	119.13

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆令和８年１月に枚方市文化芸術振興審議会を開催。
◆市民が優れた文化芸術に触れる機会の充実や主体的に文化芸術活動を行うことのできる環境整備のため、総合文化芸術センターにおいて、指定管理者との共催等により事業を実施した。
◆劇作家・演出家で兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長である平田オリザ氏との連携事業として、コミュニケーション事業を実施した。
◆市立小学校5・6年生を対象に枚方市アーティストバンク登録アーティストを派遣する、アウトリーチ事業を28校で実施した。
◆連携協定を締結している、大阪フィルハーモニー交響楽団との連携事業中学校オーケストラ鑑賞事業を2月3日・4日に実施した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・小学校に出向いての生の音楽を鑑賞する機会や、中学１年生がオーケストラ演奏を鑑賞する機会を創出するなど、児童生徒の感性を高める様々な活動が行われており、とても素晴らしい事業だと考える。（R6点検評価員会議）
・小学校アウトリーチ事業や中学校オーケストラ鑑賞事業など、家庭の経済状況に関係なく児童・生徒が文化・芸術に触れる機会を創出していることは評価できる。今後も推進していただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	**達成度**	119.13%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	17_04文化芸術の推進	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↘）
	関連計画	枚方市文化芸術振興計画【改訂版】		

10-④	文化財保護管理事業	担当課	文化財課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	39,434
					決算額	31,193

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・茄子作遺跡・藤田山遺跡・蹉跎東プレハブ文化財収蔵庫・伝王仁墓等の文化財用地の草刈り等を行い、保護管理する。
・特別史跡百済寺跡のバス専用駐車場の管理委託の実施。
・楠葉台場跡は、幕末の砲台場を保護している史跡であり、その維持のため草刈りや、清掃点検等保全管理する。
・発掘調査により出土した木製の遺物の劣化を防止するための保存科学処理を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 当該年度の遺物の保存科学処理事業進捗割合	実績値［A］ （%）	100.00	100.00	100.00
（目標値の根拠） 当該年度の国庫補助金の費消率	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆文化財用地の草刈りを６月に実施。
◆出土した木製品等の遺物について、保存科学処理を実施。
◆百済寺跡見学者用バス駐車場の管理委託を実施。
◆楠葉台場跡では、草刈り清掃の定期管理の他、住民からの要望に対応する等、日常管理を行っている。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち 施策目標19　地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	**達成度**	100.00%
	市長公約	令和６年度市政運営方針		
	実行計画	19_01歴史的文化遺産の活用と情報発信の充実	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（→）
	関連計画	－		

10-⑤	市指定文化財補助事業	担当課	文化財課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	340
					決算額	340

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

建造物の所有者に40,000円、建造物を除く有形文化財又は記念物の所有者に20,000円の枚方市文化財保存事業補助金を交付し、市指定文化財の保存管理を支援する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 市指定文化財を管理・保存するために交付する補助金の件数	実績値［A］ （件）	14	14	14
（目標値の根拠） 市指定文化財を管理・保存するために交付する補助金の申請件数	目標値［B］ （件）	14	14	14
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （％） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆市指定文化財の保存管理を支援するため、建造物の所有者に40,000円（3件）、建造物を除く有形文化財又は記念物の所有者に20,000円（11件）の枚方市文化財保存事業補助金を交付した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち 施策目標19　地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち
	市長公約	－
	実行計画	－
	関連計画	－

達成度	100.00%
R6からR7の達成度の推移	達成継続（→）

10-⑥	特別史跡百済寺跡再整備事業	担当課	文化財課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	6,179
					決算額	6,596

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・平成17年度から令和6年度にかけて実施した再整備工事特別史跡百済寺跡の整備報告書を作成する。
・創建当時の古代寺院を現地で体験できるＡＲ映像を活用するなど観光資源としての魅力を高める。

		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 当該年度の事業進捗割合	実績値［A］ （%）	100.00	100.00	100.00
（目標値の根拠） 当該年度の国庫補助金の費消率	目標値［B］ （%）	100.00	100.00	100.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	100.00	100.00	100.00

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆百済寺の創建当時の姿をイメージ体験できる「百済寺跡WebAR体験ガイド」システムの提供を行った。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち 施策目標19　地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち
	市長公約	令和６年度市政運営方針
	実行計画	19_01歴史的文化遺産の活用と情報発信の充実
	関連計画	-

達成度	100.00%
R6からR7の達成度の推移	達成継続（→）

10-⑦	市史編さん年報発行事務	担当課	文化財課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	1,062
					決算額	985

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

歴史資料の収集・整理・保存ならびに市民の歴史に関する照会及び資料利用等の要望に応えるとともに、枚方市史年報を発行する。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） レファレンス件数（枚方の歴史や史料に関する質問・照会のほか資料の閲覧・複写及び貸出等の利用も含めた件数）	実績値［A］ （件）	223	318	296
（目標値の根拠） 直近10年間のうち、利用件数上位5年の平均値 R6年度以降は、第３期実行計画における施策指標	目標値［B］ （件）	300	250	260
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	74.33	127.20	113.85

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆『新版楽しく学ぶ枚方の歴史』刊行記念講座を実施したことにより、レファレンス件数も順調に推移した。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち 施策目標19　地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	**達成度**	113.85%
	市長公約	-		
	実行計画	19_01歴史的文化遺産の活用と情報発信の充実	**R6からR7の達成度の推移**	達成継続（↘）
	関連計画	-		

10-⑧	各種スポーツ大会等開催事業	担当課	スポーツ振興課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	41,758
					決算額	41,753

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

・各種競技大会（総合体育大会等）の運営を公益財団法人枚方市スポーツ協会に委託し、実施。
・市内高校バレーボール大会を実施し、同競技の振興と青少年の健全育成を図る。
・ラグビーカーニバルを公益財団法人枚方市スポーツ協会に委託して実施。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 各大会等の参加者数	実績値［A］ （人）	18,031	17,040	16,887
（目標値の根拠） 実行計画と同様に、R1実績22,560人を目指して段階的に設置した数値	目標値［B］ （人）	20,500	21,000	21,500
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	87.95	81.14	78.54

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆各種競技大会（総合体育大会等）の運営を、公益財団法人枚方市スポーツ協会に委託し実施した。（参加者14,951人）
◆4月29日にKTM河本工業総合体育館で枚方市長杯市内高校バレーボール大会を実施した。（参加者：485人）
◆ラグビーカーニバルの運営を公益財団法人枚方市スポーツ協会に委託し、6月15日にたまゆら陸上競技場で実施した。（参加者：1,442人）
◇枚方市長杯市内高校バレーボール大会とラグビーカーニバルの参加者数は前年度を上回る結果となったが、総合体育大会の参加者数は人口減少に伴うスポーツ競技人口の減少や他大会との日程の重複等が影響し、減少となった。今後はスポーツイベント等に参加してもらうことでスポーツを始めるきっかけを創出するなど、スポーツ競技人口を増やすことができるよう努める。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　健やかに、生きがいを持って暮らせるまち 施策目標6　誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち	**達成度**	78.54%
	市長公約	-		
	実行計画	17_04スポーツ活動の推進	**R6からR7の達成度の推移**	↘
	関連計画	-		

10-⑨	スポーツ推進事業	担当課	スポーツ振興課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	10
					決算額	0

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

策定されたスポーツ推進計画に基づき、「だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康を増進し、人と人との交流を深めることを支える」を基本理念として、関係部署と連携を図りながらスポーツ施策を推進していく。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） スポーツ施設利用者数	実績値［A］ （人）	997,854	959,501	946,721
（目標値の根拠） 実行計画同様に、R1実績1,061,879人を目指して段階的に設置した数値	目標値［B］ （人）	970,000	990,000	1,010,000
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC={B+(B-A)}÷B （小数第三位を四捨五入）	102.87	96.92	93.73

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆市内スポーツ施設の管理・運営を適切に行うとともに、利用者のニーズを踏まえた利用時間の変更など、施設の利便性の向上に努めましたが、令和7年度は土地区画整理事業に伴うサプリ村野スポーツセンターのグラウンドの閉鎖や渚市民体育館のドームアリーナの工事に伴う施設の閉鎖により利用者数は減少し、目標数値には至らなかった。
◆令和6年3月に策定した「枚方市スポーツ推進計画〈改定版〉」の具体的施策に基づく事業を実施し、令和7年度は各事業の進捗確認を行った。
◇スポーツ施設の利用者数については新型コロナウイルス感染症拡大前の水準まで回復していないため、現状の利用者に引き続き施設を利用してもらうよう努めるとともに、更なる利用者数の増加に向け、新規利用者を獲得できるよう努める。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標17　誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち
	市長公約	-
	実行計画	17_04スポーツ活動の推進
	関連計画	-

達成度	93.73%
R6からR7の達成度の推移	↘

10-⑩	総合型放課後事業	担当課	放課後子ども課	事業費（千円） ※人件費を含む	予算額	1,722,026
					決算額	1,589,170

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

児童の放課後の安全な居場所づくりと子育てしやすい環境の整備として、保護者の就労等により保育を必要とする児童の適切な遊びや生活の場を提供する「留守家庭児童会室」とすべての児童が自由にかつ主体的に活動できる放課後の場所である「放課後オープンスクエア」を一体的に運営する「総合型放課後事業」を全校（直営22校・委託22校）で実施している。
令和７年度は、留守家庭児童会室に入室している児童の希望に応じて開室し、土曜日開室の利用実態を検証した上で、土曜日の総合型放課後事業のあり方について検討を進める。また、長期休業期における昼食提供サービスについて試行実施時のシステム活用のノウハウを活かし、弁当事業者の拡大を図り全校実施への取り組みを進める。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 留守家庭児童会室入室の児童・保護者、放課後オープンスクエアに参加した児童・保護者の満足度 （算出式：アンケートにて「満足」、「やや満足度」と回答した人数／アンケート回答者数×100）	実績値［A］ （%）	78.31	79.91	93.60
（目標値の根拠） 留守家庭児童会室入室児童・保護者、及び放課後オープンスクエア利用児童・保護者の満足度　85%以上	目標値［B］ （%）	85.00	85.00	85.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	92.13	94.01	110.12

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆三季休業期昼食サービスについて、夏季・冬季・春季休業期に全44校で試行実施を行った。
◆令和７年７月から試行として、留守家庭児童会室利用者の希望に応じて、土曜日の留守家庭児童会室を開室する取組を開始した。
◆不審者の抑止や事件・事故の未然防止、児童の性被害防止等を目的とし、留守家庭児童会室全44施設に防犯カメラの設置を行った。
◆留守家庭児童会室の待機児童については、令和７年４月１日時点は７名の待機児童が発生していたが７月には解消した。
【総合型放課後事業利用状況】
・放課後オープンスクエア登録児童数（３月時点）7,947人（登録率41%）
・放課後オープンスクエア参加人数（１日平均）平日1,274人　土曜日88人
・留守家庭児童会室入室児童数（４月時点）4,469人　（３月時点）3,856人
・留守家・放課後OS併用利用児童数（３月時点）1,077人
・全児童数（３月時点）19,719人
◆留守家庭児童会室施設の環境改善として、和式トイレの洋式化や男女別トイレの設置に向けた実施設計を行った。また、学校施設を最大限に活用することを基本に、留守家庭児童会室の施設の老朽化や利用状況等を踏まえ、各施設の整備の優先順位と方向性を整理した「留守家庭児童会室個別施設計画」を策定した。
◇留守家庭児童会室の土曜日開室について、全室で利用者の希望に応じた開室の試行実施を継続し、利用状況や運営体制の検証結果を踏まえた制度設計を行う。
◇三季休業期の昼食サービスについて、引き続き全小学校で試行実施を継続するとともに、この仕組みを活用して欠食リスクを抱える児童に対して昼食を提供し、安心できる居場所の中で児童の様子を見守り、必要な支援につなげる。
◇「留守家庭児童会室個別施設計画」に基づき、建替えや増築が必要な施設について、整備手法等の可能性調査を実施する。あわせて、児童が安心して過ごせる環境を確保するため、引き続き図書室や体育館等の学校施設の有効活用に努める。
◇朝の児童の居場所の確保については、子どもの生活リズムや学校運営への影響、安全管理体制の確保等の課題を整理し、先行自治体の事例を踏まえ、国の支援制度の活用の可能性やＮＰＯ法人等の参画も視野に入れ、持続可能な仕組みの構築を検討する。

これまでの点検評価員等からの主な意見

・これまで期限内に入室申込みのあった全ての児童を受入れるという方針のもと、臨時定員等を設けて受け入れされてきたということであるが、今後も放課後オープンスクエアの拡充、職員体制や施設の整備、余裕教室の確保などを通じて、通年で待機児童０をめざして取組んでいただきたい。（R5点検評価員会議）
・令和５年度の全校実施から実績値、登録児童数とも増えている。今後も、留守家庭児童会室の土曜開室、三季休業期昼食サービスの全校実施に向けた試行など保護者のニーズをとらえた取り組みと併せて、事業の充実に努めていただきたい。（R7点検評価員会議）

関連計画		
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標15　子どもたちが健やかに育つことができるまち
	市長公約	令和５年度所信表明、令和６年度・７年度市政運営方針
	実行計画	15_01子どもが安心して教育・保育を受けられる環境づくり
	関連計画	枚方市児童の放課後を豊かにする行動計画

達成度	110.12%
R6からR7の達成度の推移	↗

10-⑪	枚方子どもいきいき広場補助事業	担当課	放課後子ども課	事業費（千円） ※人件費を除く	予算額	31,191
					決算額	26,911

事業概要（令和７年度の取り組み内容）

これからの時代を生きる子どもの「生きる力」を育むことを目的として、市内44小学校区で、土曜日の学校休業日を基本に、地域の特色や多様性を活かしたプログラムを児童健全育成事業として実施する。地域団体やNPO等に対し支援・助成を行う。

指標		R5年度	R6年度	R7年度
（実績値の内容） 参加した子どもにおける事業の満足度 （算出式：「参加してとてもたのしかった」、「まあまあたのしかった」と回答した数／アンケート回答者数×100）	実績値［A］ （%）	88.9	94.18	95.39
（目標値の根拠） 参加した子どもにおける事業の満足度　85%以上	目標値［B］ （%）	85.00	85.00	85.00
（めざすべき方向） ⇧	達成度［C］ （%） ※⇧ならC=A÷B ※⇩ならC=｛B+(B-A)｝÷B （小数第三位を四捨五入）	104.59	110.8	112.22

令和７年度の取り組み実績（◆…事業の取り組み実績　◇…事業の課題事項）

◆枚方子どもいきいき広場事業の活動場所の巡回を行うとともに、活動団体の代表者会議を7月、11月、３月に開催し、活動報告や取組みについて情報交換を行った。
◇後継者の育成や担い手不足、提供するプログラムの固定化などの課題に対し、今後も市内44校全校で継続して実施できるよう地域の実情に応じて支援する。

これまでの点検評価員等からの主な意見

関連計画				
	第5次総合計画	基本目標　一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち 施策目標15　子どもたちが健やかに育つことができるまち	達成度	112.22%
	市長公約	-		
	実行計画	-	R6からR7の達成度の推移	達成継続（↗）
	関連計画	枚方市児童の放課後を豊かにする行動計画		

未達成事業への対応

事業名	未達成理由	今後の方向性
⑧各種スポーツ大会等開催事業	スポーツイベント等はプログラムの拡充等により参加者数は増加したが、各種競技大会（総合体育大会等）の参加者数は人口減少に伴うスポーツ競技人口の減少や他大会との日程の重複等が影響し、参加者数が減少したことから、目標達成に至らなかった。	今後はスポーツイベント等に参加してもらうことでスポーツを始めるきっかけを創出するなど、スポーツ競技人口を増やすことができるよう努める。

基本方策10に対する点検評価員による評価

総合型放課後事業の利用者数が増加する中、三季休業期の昼食サービスや留守家庭児童会室の土曜日開室の試行を行うとともに、「枚方市留守家庭児童会室個別施設計画」を策定する等、子どもの安全安心な居場所の確保と環境整備、保護者の就労支援として一定の効果があったものと受け止められる。今後は、取り組みの推進に必要な運営体制の確保や、直営・委託にかかわらず、子どもたちにとって、安全で自由に過ごせる空間づくりの拡充に努めていただきたい。

各事業についての意見は、次のとおりである。

10－⑩総合型放課後事業について、各種取り組みの実施・拡充に係るコスト等を見極めながら、施設等の環境整備、各種取り組みのさらなる充実に努められたい。

７．枚方市教育委員会の令和７年度の活動の概要

枚方市教育委員会は、市長が市議会の同意を得て任命した教育長と４人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。教育長は教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表します。教育長の任期は３年、委員の任期は４年です。

【教育委員会の構成】

（令和８年３月31日現在）

職名	氏名	任期	備考
教育長	谷元　紀之	令和７年１月１日～ 令和10年３月31日	令和７年４月１日 再任
教育委員	近藤　　孝	平成30年４月１日～ 令和８年３月31日	令和４年４月１日 再任
教育委員	中西　悠子	令和３年４月１日～ 令和11年３月31日	令和７年４月１日 再任
教育委員	大中　智恵	令和６年４月１日～ 令和10年３月31日	令和６年４月１日 新任
教育委員	桐山　智巳	令和７年４月１日～ 令和９年３月31日	令和７年４月１日 新任

（１）令和７年度教育委員会定例会・臨時会について

教育委員会の会議は、原則として毎月定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。定例会とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定に基づき、枚方市教育委員会会議規則第２条第２項の規定により毎月１回開催する会議です。臨時会とは、同規則第２条第３項の規定により臨時に開催する会議です。

（２）令和７年度教育委員会協議会について

教育委員会協議会は、枚方市教育委員会会議規則第18条の規定により、委員会の所管事項について調査、研究等の必要があると認めるときに開催する会議です。

【令和７年度教育委員会定例会・臨時会の開催実績及び協議会案件数】

区分	年　月　日	日数（日）	出席委員数（人）	審議内容（件）								協議会案件数
				原案可決	修正可決	選挙	承認	不採択	継続	聴取	計	
令和７年第４回定例会・協議会	令和7年4月21日	1	5	-	-	-	11	-	-	1	12	2
令和年７第５回定例会・協議会	令和7年5月29日	1	5	-	－	－	4	－	－	1	5	2
令和７年第６回定例会	令和7年6月30日	1	5	1	－	－	4	－	－	1	6	－
令和７年第７回定例会	令和7年7月24日	1	5	4	－	－	2	－	－	2	8	－
令和７年第８回定例会・協議会	令和7年8月21日	1	5	3	－	－	1	－	－	4	8	2
令和７年第９回定例会・協議会	令和7年9月25日	1	5	－	－	－	1	－	－	1	2	1
令和７年第10回定例会	令和7年10月23日	1	5	1	－	－	1	－	－	－	2	－
令和７年第11回定例会・協議会	令和7年11月20日	1	5	－	－	－	2	－	－	4	6	5
令和７年第12回定例会	令和7年12月23日	1	5	－	－	－	1	－	－	1	2	－
令和８年第１回定例会	令和8年1月23日	1	5	3	－	－	4	－	－	3	10	－
令和８年第１回臨時会	令和8年1月29日	1	4	1	－	－	－	－	－	－	1	－
令和８年第２回定例会・協議会	令和8年2月9日	1	5	1	－	－	5	－	－	3	9	5
令和８年第３回定例会・協議会	令和8年3月24日	1	5	2	－	－	7	－	－	6	15	1

（３）令和７年度教育委員会の活動状況

会議・行事等		出席回数		
		Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
①	学校関係（式典、行事等）	16回	13回	13回
②	学校関係（授業視察等）	80回	31回	63回
③	教育委員会関係（式典、会議、行事等）	110回	110回	90回
④	枚方市、市議会、各種団体関係（式典、会議、行事等）	142回	57回	111回
⑤	教育長協議会、会議研修等	18回	25回	16回
⑥	教育委員研修会等	７回	７回	11回
合計		373回	243回	304回